法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-09-03

法政大學講義録

松岡，義正 / 美濃部，達吉 / 富井，政章 / 矢部，廉 / 掛下，重次郎 / 山田，三良 / 若槻，禮次郎 / 上杉，愼吉

(出版者 / Publisher)
法政大學
(巻 / Volume)
3-16
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
58
(発行年 / Year)
1904-03-18

（明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可
毎月十問一日三日五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行）

三十七年度

明治三十七年三月十八日發行

第三學年ノ十六

法政大學講義錄

第五拾號

法政大學發行

第三學年第十六號目次

民法物權（自第七章至第十章）（自一〇五至一一二）　法學博士　富井政章
民法親族（自二八一至二八八）　法律學士　掛下重次郎
民法相續（自二五五至二六二）　法學士　若槻禮次郎
商法手形（自七三至八八）　法學士　矢部廉
行政法總論（自六一至六八）　法學博士　美濃部達吉
行政法各論（自一五一至一七〇）　法學士　上杉慎吉
國際私法（自一七三至一八〇）　法學博士　山田三良
破産法（自一四一至一六四）　法學士　松岡義正

雜報

○管財人カ破産者ノ意見ヲ聽カスシテ起シタル訴ノ效力○日韓協約○最近百年間ニ於ケル大海戰統計

ハ質權者ハ株主ノ受クベキ配當金ヲ取得スルコトヲ得ナイト思フ、何トナレバ配當金ハ果實デナイ之ニ反シテ公債證書ノ利息ノ如キハ取得スルコトヲ得ルト思フ

此他債權質ニ關シテハ民法ノ規定ガ細密ニ渉ッテ居ナイガ爲メ種種困難ナル問題カ生ジマス、一般ノ原則ニ依ッテ解決スルノ外ハナイ、動産質及ビ不動産質ニ關スル規定中ニハ決シテ準用スベカラザルモノガアルト思フ、殊ニ債權質ニ關スル第三百六十三條以下ノ規定ト兩立スベカラザルモノニ付イテハ更ニ疑ナキコトデアル例ヘバ或條件ノ備ハル場合ニハ動產質ノ目的物ヲ競賣ニ付セズシテ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ許シテアル(第三五四條)此規定ハ債權質ニ準用スルコトヲ得ルカト云フニ決シテ準用スベキモノデナイト思フ、何トナレバ債權質ヲ實行スル方法ハ特ニ第三百六十七條及ビ第三百六十八條ニ定メテアル、如何ニ準用デアレバトテ同ジ事柄ヲ別別ニ規定シテアル場合ニハ動產質ニ關スル規定ヲ準用スルコトハ決シテ立法ノ精神デナイト信ジマス

是ヨリ簡略ニ債權質ニ關スル特別規定ヲ說明シマス但其規定ハ三ツノ事柄ニ

第三學年第十六號目次

民法物權（自第七章至第十章）（自一〇五至一一二）　法學博士　富井政章
民法親族（自二八一至二八八）　法律學士　掛下重次郎
民法相續（自二五五至二六二）　法學士　若槻禮次郎
商法手形（自七三至八八）　法學士　矢部廉
行政法總論（自六一至六八）　法學博士　美濃部達吉
行政法各論（自一五一至一七〇）　法學士　上杉慎吉
國際私法（自一七三至一八〇）　法學博士　山田三良
破産法（自一四一至一六四）　法學士　松岡義正

雜報

○管財人カ破産者ノ意見ヲ聽カスシテ起シタル訴ノ效力○日韓協約○最近百年間ニ於ケル大海戰統計

090
1904
3-1-16

ハ質權者ハ株主ノ受クベキ配當金ヲ取得スルコトヲ得ナイト思フ、何トナレバ配當金ハ果實デナイ之ニ反シテ公債證書ノ利息ノ如キハ取得スルコトヲ得ルト思フ

此他債權質ニ關シテハ民法ノ規定ガ細密ニ渉ッテ居ナイガ爲メ種種困難ナル問題カ生ジマス、一般ノ原則ニ依ッテ解決スルノ外ハナイ、動產質及ビ不動產質ニ關スル規定中ニハ決シテ準用スベカラザルモノガアルト思フ、殊ニ債權質ニ關スル第三百六十三條以下ノ規定ト兩立スベカラザルモノニ付イテハ更ニ疑ナキコトデアル、例ヘバ或條件ノ備ハル場合ニハ動產質ノ目的物ヲ競賣ニ付セズシテ直チニ弃濟ニ充ツルコトヲ許シテアル(第三五四條)此規定ハ債權質ニ準用スルコトヲ得ルカト云フニ決シテ準用スベキモノデナイト思フ、何トナレバ債權質ヲ實行スル方法ハ特ニ第三百六十七條及ビ第三百六十八條ニ定メテアル、如何ニ準用デアレバトテ同ジ事柄ヲ別別ニ規定シテアル場合ニハ動產質ニ關スル規定ヲ準用スルコトハ決シテ立法ノ精神デナイト信ジマス

是ヨリ簡略ニ債權質ニ關スル特別規定ヲ說明シマス但其規定ハ三ツノ事柄ニ

關スルモノデアル、即チ成立ノ要件(第三者ニ對抗スル要件及ビ實行ノ方法)此三點ニ付イテ特ニ規定ヲ置カレタモノデアル

先ヅ成立ノ要件ニ付イテ述ベンニ債權質ハ物ヲ目的トスルモノデナイ故ニ占有ヲ移スコト能ハザル譯デアル、隨テ債權者ト設定者トノ合意アルノミヲ以テ成立スルモノト謂ハネバナラヌ、然レドモ立法者ハ成ルベク普通ノ質權ト同一ニセン爲メニ占有ノ移轉ニ代ルベキ條件ヲ定メタ、其レハ即チ曩ニ一言シタ如ク質權ノ目的ト爲ルベキ債權ノ證書アルトキハ質權ノ設定ハ其證書ノ交付ヲ爲スニ因ッテ其效力ヲ生ズルモノトシタコトデアル(第三六三條)實際ノコトヲ言ヘバ最モ多クノ場合ニ於テハ債權ニハ證書ガアルガ故ニ此規定ハ最モ頻繁ニ適用ヲ見ルコトデアルト思フ、但是ハ指名債權ニノミ適用スベキ規定デアッテ無記名債權ニハ關係ナイ固ヨリ無記名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲ス場合ニハ其證書ノ交付ヲ要スルコトハ當然デアルガ、其レハ本條ノ規定ニ依ッテ然ルモノニ非ズシテ無記名債權ハ動產デアル(第八六條第三項)故ニ質權總則及ビ動產質ニ關スル規定ガ當然行ハルル譯デアリマス

債權質ヲ以テ第三者ニ對抗スル要件ニ付イテハ種種ノ場合ヲ區別セネバナラヌ、民法ニハ先ヅ普通ノ指名債權ニ付イテ規定シタアル、此種ノ債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタル場合ニ其質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ債權讓渡ニ於ケルト同一ノ方式ヲ履ムコトガ必要デアル、即チ第四百六十七條ノ規定ニ從ッテ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知スルカ又ハ其承諾ヲ得ルコトガ必要デアル、而シテ此手續ヲ必要トシタル理由ハ債權讓渡ノ場合ニ於ケルト同一デアル、即チ僅單ニ言ヘバ不完全デハアルガ第三者ニ對スル公示方法ト爲ルモノデアリマス

此公示方法ハ第三債務者ニ對シテハ十分ナル效力アルモノト思フ、何トナレバ還知殊ニ承諾ハ第三債務者ニ於テ質權ノ設定セラレタルコトヲ直接ニ知ル方法デアルガ故ニ第三債務者ヲシテ其債權者即チ質權設定者ニ有效ナル辨濟ヲ爲スコトヲ得ザラシムル結果ヲ生ズルニハ最モ適切ナル方法デアル、之ニ反シテ第三債務者以外ノ第三者即チ質權ノ目的ト爲ッタ債權ヲ讓受ケントスル者又ハ更ニ之ヲ質ニ取ラントスル者ニ對シテハ甚ダ不完全ナル公示方法ト謂ハネ

バナラヌ、何トナレバ此等ノ者ハ第三債務者ニ付イテ其債權ガ既ニ質權ノ目的ト爲リシ等ノコトナキヤ否ヤヲ探知スルノ外ニ途ガナイ、第三債務者ニ於テ僞言ヲ吐カバソレマデノコトデアル、唯其債權ノ證書ガ質權設定者ノ手ニ存セザルトキハ危險ナルコトヲ知リ得ルマデノコトデアリマス(第三六四條第一項)

以上述ベタル規定ハ記名ノ株式ニハ之ヲ適用セズトアル(第三六四條第二項)是ハ原案ニハ存セザリシ規定デアルガ議會ニ於テ加ヘラレタ改正デアリマス、原案ニハ會社ノ株主名簿ニ記載スルコトヲ必要トシテアッタ、然ルニ斯ル手續ハ從來ノ慣習ニ反シテ不便デアルト云フコトヨリ改正ニ爲ッタ譯デアル、然レドモ總テ第三者ヲ保護スル爲メノ規定ハ公益上ヨリ設クルモノデアッテ慣習ニ反スルヲ顧ミルニ遑ナイ、他ノ場合ニ付イテハ總テ嚴格ナル制限ヲ設ケラレタニモ拘ハラズ株式ノ質入ニ關シテノミ第三者保護ノ方法ヲ盡スコトニ爲ラザリシハ一ノ缺點デアルト考ヘマス

記名ノ社債ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタル場合ニハ社債ノ讓渡ニ關スル規定ニ從ッテ會社ノ帳簿ニ質權ノ設定ヲ記入スルニ非ザレバ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ナイ(第三六五條)社債トハ株式會社ノ債務ヲ謂フモノデアル、詳細ナルコトハ商法ニ規定シテアルニ由ッテ茲ニハ述ベマセヌ、之ニ付イテモ帳簿ニ記入スルト云フ如キ第三者保護ノ規定ヲ置キナガラ右ニ述ベタ株式ニ付イテ同一ノ規定ナキハ甚ダ不權衡デアルト思フ

指圖債權即チ爲替手形其他裏書ヲ以テ讓渡スベキ債權ハ裏書ニ依ッテ流通スルモノデアル、故ニ質權設定ノ如キ其權利ノ範圍效力ニ關スル重要ナル事項ハ必ズ證券面ニ記入スベキハ當然ノコトデアル、故ニ質權ノ設定ハ之ヲ裏書スルニ非ザレバ第三者ニ對抗スルコトヲ得ザルモノト定メラレタノデアル(第三六六條)尙ホ此種ノ債權ハ裏書ノ外ニ交付ヲ要スルコトハ第三百六十三條ニ依ッテ言フヲ俟タナイコトデアリマス

終ニ民法ハ債權質ヲ實行スル方法ヲ定メテアリマス、其レハ第三百六十七條及ビ第三百六十八條ノ規定デアル、此點ニ關シテハ質權者ハ或制限ヲ以テ債權ヲ讓受クルト同一ノ地位ニ立ツモノデアル、債權質ノ性質ハ曩ニ述ベタ如ク債權ノ讓渡ト看ルベキモノデハナイト考ヘマス、ケレドモ其實行方法ニ至ッテハ恰モ

質權ノ目的ノ範圍内ニ於テ其債權ヲ讓受ケタルト同一デアル

債權質實行ノ方法ハ其目的タル債權ヲ取立ツルコトデアリマス(第三六七條第一項)是ハ普通ノ方法即チ本則デアル、而シテ此方法ニ依ッテ質權ヲ實行スルニハ質權ノ目的タル債權ノ目的ガ金錢ナルト否トニ依ッテ區別セネバナラヌ、其債權ノ目的ガ金錢デアルトキハ先ヅ質權者ハ自己ノ債權ノ部分ニ限ッテ之ヲ取立ツルコトヲ得ル(同條第二項)是ハ殆ド言フヲ俟タザルコトデアリマス、如何トナレバ其限度ヲ超エテハ自己ノ權利ノ範圍外ト爲ル、質權者ハ尋常一般ノ債權者ト異ナッテ優先權ニ依ッテ辨濟ヲ受クルコトヲ得ル者デアルガ故ニ自己ノ債權額ヲ限度トスルモ辨濟ヲ受クルニ妨ナキハ當然ノコトデアリマス

次ニ質權ノ目的タル債權ノ辨濟期ガ質權者ノ債權ノ辨濟期前ニ到來スルト其以後ニ到來スルトニ因ッテ更ニ結果ヲ異ニスル、若シ質權ノ目的タル債權ノ辨濟期ニ先ッテ質權者ノ債權ノ辨濟期ガ到來シタルトキハ質權者ハ自己ノ債權ヲ取立ツルコトヲ得ルハ言フヲ俟タザル所デハアルガ質權ノ目的タル債權ハ未ダ之ヲ取立ツルコトヲ得ナイ、何トナレバ若シ質權者ニ此ノ如キ權利アルモノトスレバ第三債務者ニ期限ノ利益即チ契約上ノ權利ヲ失ハシムルコトト爲ル譯デアリマス、此點ニ付イテハ殆ド疑ヲ生ズベキ餘地ナイ故ニ民法ニハ何等ノ規定ヲモ置イテナイ、之ニ反シテ質權者ノ債權ガ辨濟期ニ至ル前ニ質權ノ目的タル債權ノ辨濟期ガ到來シタルトキハ質權者ハ未ダ自己ノ債權ヲ實行スルコトヲ得ザルガ故ニ其擔保タル債權ノ取立ヲ爲スコトヲ得ザルモノト謂ハナケレバナラヌ、然レドモ若シ此ノ如クニ空シク手ヲ束ネテ辨濟期ノ到ルヲ俟タネバナラヌモノトスレバ或ハ大ナル損害ヲ被ルニ至ルコトガアル、何トナレバ質權者ノ債權ガ辨濟期ニ至ルマデニハ第三債務者ハ無資力ト爲ルヤ計ラレヌ故ニ假ニ之ヲ取立テテ他日辨濟ヲ得ルコトヲ確ムル方法ガナクテハナラヌ、此場合ニ於テ若シ第三債務者ヲシテ辨濟ヲ爲サシムルモノトスレバ其辨濟ハ何人ニ之ヲ爲スベキヤ、別段ノ規定ナキ限ハ其直接ノ債權者タル債務者即チ質權設定者ニ辨濟ヲ爲スベキコトト爲ルデアラウ、然ラバ其危險ハ一層大ナルモノト謂ハネバナラヌ、是ヲ以テ法律ハ此場合ニ於テ質權者ハ第三債務者ヲシテ其辨濟金額ヲ供託セシムルコトヲ得ルモノトシタ、而シテ質權ハ其供託金ノ上ニ存在

スルモノト定メタアル(第三六七條第三項)

此規定ハ質權者ヲ保護スル爲メニ設ケラレタ便宜法デアッテ、此場合ニハ質權ノ目的ガ更改セラレタルモノデアル、即チ從來債權ヲ目的トシタルニ爾後供託金ヲ目的トスルコトニ變ジタ譯デアル、而シテ質權者ニ於テ單ニ供託ヲ爲サシムルコトヲ得ルニ止マリテ直チニ取立ツルコトヲ得ザルモノトシタ所以ハ外デハナイ、質權ヲ設定シタル債務者ヲシテ期限ノ利益ヲ失ハシメザルガ爲メデアル、此場合ニハ第三債務者ハ供託ニ因ッテ其債務ヲ免ルル譯デアルガ故ニ質權設定者ハ利息ヲ取得スルコトヲ得ザルニ至ルガ如クニ見ユルガ、供託法ニ於テ供託金ニ利息ヲ附スルコトト定メタアルガ故ニ斯ル結果ヲ生ズルコトハナイ、債務者ハ決シテ不當ノ損害ヲ被ルコトナイト思フ(供託法第三條)

質權ノ目的物ガ金錢ニ非ザル場合ニ於テハ質權者ハ辨濟トシテ受ケタル物ノ上ニ質權ヲ有スル(第三六七條第四項但其物ヲ以テ直チニ自己ノ所有ト爲スコトヲ得ナイ、唯普通ノ場合ニ於ケル如ク之ヲ競賣ニ付シテ其代價ヲ以テ辨濟ニ充ツルコトヲ得ルマデデアル、此場合ニ於テモ質權ノ目的ハ更改セラレタルト

組ニ因リテ他家ニ入リタル者ハ實家ノ親權ヲ脫スルト同時ニ養家ノ親ノ親權ニ服スルモノトス

法律カ親權ヲ行フ者ヲ家ニ在ル父又ハ母ニ限リタルハ蓋シ我邦從來ノ慣習ニ依レハ家ヲ異ニスル父又ハ母ハ子ニ對シテ十分ナル權力ヲ有セサルモノニシテ苟モ家族制ヲ存スル以上ハ全ク此慣習ヲ度外ニ措クコト能ハサルヲ以テナリ故ニ繼父若クハ養親ト家ヲ同シウスル者ハ其愛情ヨリ言ヘハ他家ニ在ルモ血緣アル實父カ親權ヲ有シテ可ナルモノノ如シト雖モ子ヲ其家風ニ適スル樣訓戒スルカ如キニ至リテハ家ヲ同シウスル父ノミ適當ニシテ他ニ在ル實父ニ容喙セシムヘキモノニ非ス此ノ如キ事ニ關シテハ實父ハ權力ヲ有セサルヲ以テ右ノ如キ規定ヲ設ケタルナリ

繼父母及ヒ嫡母ニ特別ナル規定(第八七八條)　繼父、繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ次章(後見ノ章)ノ規定ヲ準用ス(舊民法人事編第一五〇條乃至第一六〇條)

繼父母又ハ嫡母モ親權ヲ有スト雖モ此等ノ者ハ子ト自然ノ血緣ヲ有セサルヲ

以テ愛情ニ乏シク相敵視スルコトナシトセサルモノニシテ此等ノ者ハ子ノ十分ナル保護者ニ非サルヲ以テ繼父母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ後見ニ關スル規定ヲ準用シ此等ノ者ハ後見人ト同一ノ權力ヲ有スルニ止マル者ト爲セリ

第二節　親權ノ效力

監護及ヒ教育ヲ爲スノ權利及ヒ義務(第八七九條)　親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲ス權利ヲ有シ義務ヲ負フ(舊民法人事編第一五〇條、第一五一條)

監護及ヒ教育ハ專ラ子ノ身上ニ關スルモノニシテ法律カ親權ノ制ヲ設ケタルハ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲サシムルニ在リテ子カ此等ノ保護ヲ受クルハ專ラ未成年ノ間ニ在リ故ニ此規定ハ未成年者ノミニ關ス而シテ監護トハ監督、保護ニシテ子ノ發育ヲ圖ルニ在リ故ニ別ニ之カ說明ヲ爲スヲ要セサレトモ教育ニ付テハ親權者ハ如何ナル程度ニ子ヲ教育セシムヘキヤ例ヘハ高等教育ヲ授クヘキヤ又ハ中等教育又ハ下等教育ニ止ムヘキヤ等ハ各人ノ身分及ヒ資力ニ應スヘキモノナレハ法律ハ別ニ之カ程度ヲ定メス又其教育ノ方法モ同シク其身分、資力及ヒ子ノ性質等ニ依リテ定ムヘキモノナレハ法律ハ之ヲ前者ト共ニ一ニ親權者ノ判斷ニ任スルコトト爲セリ

子ノ監護及ヒ教育ハ一方ニ於テハ父又ハ母ノ權利ナレトモ又他ノ一面ヨリ言フトキハ其義務タルナリ

茲ニ注意スヘキハ親ハ小學校令ニ依リ子ヲ小學校ニ入ラシムヘキ義務アリ而シテ親ハ其義務ヲ盡スヲ以テ其子ニ對シ教育ニ關スル義務ヲ盡シタリト謂フヲ得ス小學校令ヨリ生スル親ノ義務ハ公法上ノ義務ニシテ子ト親トノ關係ニ非ス之ニ反シテ親權ヨリ生スル義務ハ私法上ノ關係ニシテ親子間ノ權利義務ヲ規定シタルモノナレハ身分ノ高キ者、資力ヲ有スル者ハ其身分、資力ニ相應スル教育ヲ爲サシムヘキ義務アルモノニシテ公法上ノ義務ナル小學校ニ入ルヲ以テ足レリトセス尙ホ高等ノ教育ヲ受ケシメサルヘカラサルナリ

此規定ハ既ニ說キタルカ如ク子ノ身上ニ關スルニ止マリ其財產ニ關セサレハ

子ノ教育ハ必スシモ親ノ費用ヲ以テスヘシト云フニ非サルナリ子ノ教育ノ費用ハ原則トシテハ子ノ財產ヲ以テ之ヲ支辨スヘク唯其財產ナキトキニ非サレハ父ハ其費用ヲ負擔セサルナリ(第九五九條)

居所指定ノ權(第八八〇條)　未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母カ指定シタル場所ニ其居所ヲ定ムルコトヲ要ス但第七百四十九條ノ適用ヲ妨ケス(舊民法人事編第一五〇條)

戶主カ其家族ノ居所ヲ指定スル權ヲ有スルコトハ曩ニ第七百四十九條ニ付キ說キタル所ナルカ親權者モ未成年ノ子ニ對シテハ其居所ヲ指定スルコトヲ得ルモノト爲セリ是レ監護教育ノ權利ヨリ生スル重要ナル效果ノ一ナリ若シ未成年者ニ隨意ニ其居所ヲ定ムルコトヲ許ストキハ或ハ浮浪惡奸ノ徒ト交リ監護教育ノ權利ハ毫モ其目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ルヘキヲ以テ此規定ヲ設ケタリ

親權者カ戶主ニ非サルトキハ未成年ノ子ニ對シテハ其居所ヲ定ムル者二人アルヲ以テ其間ニ意見ノ衝突アルトキハ孰レノ意見ニ從フヘキヤ例ヘハ戶主ハ

其家ニ居ラシメント欲シ親權者ハ東京ノ學校ニ入ラシメントシタルカ如キ場合ニ於テ親權者ハ原則トシテハ戶主ノ意見ニ從フヘシト雖モ若シ戶主ノ意見ニ從ヒ家ニ留ムルヲ以テ子ノ爲メ不利益ナリトスルトキハ親權者ハ自己ノ意見ニ從ヒ子ヲ自己ノ指定シタル場所ニ居ラシムルコトヲ得ヘシ然レトモ戶主ハ固有ノ戶主權ヲ有スルヲ以テ此場合ニ於テ戶主カ其權利ヲ實行セント欲スルトキハ之カ實行ヲ妨クルコトヲ得サルモノナレハ法律ハ實行ノ爲シ得ラル限リ實行セシムヘキモノト爲セリ故ニ子カ親權者ノ意見ニ從ヒタルトキハ戶主權者ハ自己ノ權ニ服從セサル者カ未成年者ナルニ於テハ之ヲ離籍スルコトヲ得サレトモ(第七四九條第三項)此場合ニ於テハ第七百四十九條第二項ノ規定ニ從ヒ扶養ノ義務ヲ免ルヘシ

曩ニ叙述シタルカ如ク親權ノ效力ノ成年ノ子ニ及フハ懲戒權ノミナレハ本條ノ規定スル所モ未成年者ノミニ關スルナリ

未成年ノ子カ父又ハ母ノ居所ノ指定ニ從ハサルトキハ如何ナル制裁アルカ親權者カ戶主ニ非サルトキハ自己ノ權ニ服セサル子ニ對シテハ戶主ノ如ク扶養

義務ヲ免ルルコトヲ得ス而シテ民法ニハ別ニ其制裁ヲ設ケサレハ唯本條規定ノ强制ノ方法トシテハ公力ニ訴ヘテ之カ實行ヲ爲スコトヲ得ヘシ例ヘハ訴訟ヲ提起シ若クハ警察ノ力ニ頼ルコトヲ得ヘケレトモ本條ハ唯其權利ノ本則ヲ定メタルニ止マリ其强制ノ方法ノ如キハ本法ノ關スル所ニ非サルナリ

兵役ノ出願ヲ許否スル權利(第八八一條)　未成年ノ子カ兵役ヲ出願スルニハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(舊民法人事編第一五〇條)此規定モ第八百七十九條ノ適用ニ過キス而シテ徴兵令明治二十二年法律第一號第一二條)ニ依レハ十七歳以上ノ男子ハ兵役ヲ出願スルコトヲ得ルヲ以テ未成年ノ子カ兵役ヲ出願セントスルトキハ是レ大ニ子ノ身上ニ重要ノ影響ヲ有スルモノナレハ未成年ナル場合ニ限リ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ヘキモノト爲セリ

懲戒權(第八八二條)　親權ヲ行フ父又ハ母ハ必要ナル範圍内ニ於テ自ラ其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ懲戒場ニ入ルルコトヲ得子ヲ懲戒場ニ入ルル期間ハ六个月以下ノ範圍内ニ於テ裁判所之ヲ定ム但此期間ハ父又ハ母ノ請求ニ因リ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得舊民法人事編第一五一條、第一五二條、非訟事件手續法第九二條)

此懲戒權ハ曩ニモ叙述シタルカ如ク未成年者ニ限ラス成年者ニモ關スルモノニシテ其作用ハ法律ニ於テハ之ヲ一定セス或ハ叱責スルコトアリ或ハ毆打スルコトアリ或ハ室内ニ監禁スルコトアリテ此ノ如キハ一ニ親權者一己ノ所存ニ在リト雖モ其程度ニ至リテハ餘リ甚シクシテ慘酷ニ陷リ爲メニ子カ創傷ヲ受クルカ如キハ法律ノ許ササル所ナリ故ニ必要ナル範圍ニ於テト云ヒ實ニ已ムヲ得サル場合ニ於テ相當ノ程度ニ於テ懲戒ヲ加フルコトト爲セリ而シテ其程度ハ全ク事實問題ニ屬スルモノナレハ一ニ裁判官ノ査定ニ任セサルヘカラス若シ親權者カ其程度ヲ失シ親權ヲ濫用スルコトアラハ其權利ノ作用ハ子ノ保護ト爲ラスシテ却テ害ト爲ルヘケレハ此場合ニ於テハ第八百九十六條ニ規定スル制裁ヲ受ケ親權者ハ其權利ヲ喪失スルコトアルヘキナリ親權ノ濫用甚シクシテ子ヲ毆打創傷シ又ハ慘酷ニ監禁制縛シテ衣類飲食ヲ屏去スル等苛刻ノ所爲アルトキハ曾ニ親權者ハ其權利ヲ喪失スルノミナラス刑法ノ制裁(毆打創

傷又ハ擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪)ヲ受クヘキヤ論ヲ俟タサルナリ何トナレハ懲罰ヲ加フルノ權利ハ國家ニ專屬セルモノニシテ箇人カ擅ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘカラサレハナリ故ニ父又ハ母ノ專斷ニ依ル懲戒權ハ必要ナル範圍ヲ脫セサルコトニ注意セサルヘカラス

親權者ハ自己ノ專斷ヲ以テ爲ス懲戒ノ外尙ホ進ミテ子ヲ懲戒場ニ入ルルコトヲ得ヘシ然レトモ之カ爲メニハ特ニ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス而シテ懲戒場トハ民法ニ於テハ如何ナル場所ナルコトヲ定メスト雖モ刑法第七九條(第八〇條、第八二條)ニ所謂懲治場ノ如キモノヲ指スモノニテ感化院ノ如キモノハ此中ニ算セサルナリ何トナレハ懲治場ハ子ノ罪惡ヲ懲戒、矯正スル目的ヲ有スル場所タルヘシト雖モ感化院ハ之ト異ナリ其目的寧ロ敎育ニ屬スルモノニシテ之ニ入ルルカ如キハ別ニ裁判所ノ許可ヲ受クルノ必要アラサレハナリ而シテ懲戒場ニ入ルルノ期間ハ法律ニ於テ之ヲ制限シ如何ナル場合ニ於テモ其最長期ハ六箇月ヲ超過セサルコトト爲セリ又一旦裁判所カ定メタル期間ト雖モ父又ハ母ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得ルモノト爲セリ

ノ責ヲ負フテ賠償セサルヘカラサルハ勿論ナルモ之ニ因リテ單純承認者タルノ制裁ヲ受クヘキモノニ非ス

第二款　限定承認

第一　限定承認ノ效力

第千二十五條ニ依リテ親レハ相續人ハ相續ニ因リテ得タル財產ノ限度ニ於テノミ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スルノ制限ヲ附シテ相續ノ承認ヲ爲スコトヲ得承認トハ事實ノ存在スルコトヲ直チニ認ムルコトニシテ制限ヲ附シテ承認スルトハ用語ハ少シク當ラサルカ如クナレトモ法律カ特ニ此ノ如キ承認ヲ認メタルカ故ニ限定承認モ亦之ヲ一ノ承認ト爲ササルヘカラス故ニ限定承認者ト雖モ承認ヲ爲セハ自ラ相續人ト爲ルモノニシテ被相續人ノ有セシ財產ニ付テハ之カ權利者ト爲リ其債務並ニ遺贈ニ付テハ之カ義務者ト爲ル唯單純承認者ト異ナル所ハ其承認ニ附シタル制限ノ力ニ依リテ義務ヲ辨濟スル上ニ於テ或程度ニ止マル所アルノミナリ次ニ其制限ヲ說明セン

(イ)相續人ハ相續財産ノ限度ニ於テノミ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スヘキモノナリ法律ハ相續ノ效力ヲ規定シテ被相續人ノ一切ノ權利義務ヲ承繼スルモノナリト爲セシカ故ニ何等ノ制限ヲモ附セスシテ相續ヲ承認スルニ於テハ相續財産カ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スルニ不十分ナルトキハ自己ノ財産ヲ以テモ之カ辨濟ノ義務ヲ果ササルヘカラスト雖モ限定承認ヲ爲シタル場合ニ於テハ相續人ハ相續財産ノ全額丈辨濟スレハ可ナルモノニシテ如何ナル場合ニ於テモ自己ノ財産ヲ以テ辨濟スルコトヲ要セサルナリ即チ限定承認ノ場合ニ於テハ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ハ恰モ相續財産ノミノ負擔ナルカ如キ效力ヲ生スルモノニシテ相續財産ハ相續上ノ義務カ清算セラルルニ至ルマテハ相續人ノ財産ト離レテ特別ノ財産ヲ形成スルモノナリ第千二十五條ハ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ノ辨濟ニ關シテノミ相續財産ノ限度ニ止マルコトヲ規定スルカ故ニ被相續人ノ債務並ニ遺贈以外ノモノニシテ相續ノ結果ニ因リテ相續人ノ義務ト爲リタルモノハ第千二十五條ノ規定ニ拘ラス相續財産ノ高ヲ超エテモ其義務ヲ辨濟セサルヘカラス家督相續ノ場合ニ於テ新民法ノ規定ニ從ヘハ相續ノ效力トシテ戸主ノ義務カ移轉スルモノナリ然ルニ戸主ノ義務ハ債務ニ非サルカ故ニ之カ履行ニ關シテハ相續人ハ相續財産ノ限度ニ止ムルコトハ爲シ得サルナリ又被相續人ノ葬式ヲ爲ス費用ハ被相續人ノ債務ニ非ス葬式ヲ爲ス義務アル人即チ多クノ場合ニ於テハ相續人ノ負擔ナルヘキカ故ニ其辨濟ハ相續人カ自己ノ費用ヲ以テ爲スヘキモノナリ故ニ相續財産ノ限度ニ於テ支拂ヲ止ムルコトヲ得ス又第千二十五條ハ相續ニ因リテ得タル財産ノ限度ニ於テノミト明定ス遺留分權利者カ贈與ノ減殺ニ因リテ得タル財産モ亦遺留分權利者タル相續人カ相續ニ因リテ得タル財産ナルコトハ第九百六十七條第二項ヲ其第一項ト比較セハ疑ナキ所タリ果シテ然ラハ遺留分權利者カ贈與ノ減殺ニ因リテ得タル財産モ亦被相續人ノ債務又ハ遺贈ノ辨濟ニ充テサルヘカラサルカ相續ノ費用ニ付テ述ヘタル如ク法律ノ意思ハ此ノ如ク解スルヲ得ス法律カ贈與ノ減殺ヲ爲スコトヲ得セシムル所以ノモノハ相續人ヲシテ遺留分ヲ保全セシメンカ爲メナリ若シ贈與ノ減殺ニ因リテ得タル財産ヲ以テ相續財産ナリト爲シ之ヲ以テ相續債權者並ニ受遺者ニ辨濟スヘキモノトセハ贈與ノ減殺ハ多クノ場

合ニ於テ遺留分ヲ保全スルノ目的ヲ達セス殊ニ法律カ減殺スルコトヲ許スモノハ贈與ノミナラス遺贈モ亦之ヲ減殺スルコトヲ得若シ減殺ノ結果相續上ノ債權者ヲ利スト云フナラハ遺贈ヲ減殺シテ之ヲ以テ遺贈ヲ受ケタル者ニ辨濟スルノ結果ヲ生ゼ法律ノ規定ハ全ク意味ナキモノトナルヘシ故ニ第千二十五條ノ所謂相續ニ因リテ得タル財產ト云フ中ニハ贈與ノ減殺ニ因リテ得タル財產ヲ含マサルコトハ其規定ノ性質ヨリシテ自ラ此ノ如ク解セサルヘカラス

(ロ)相續人カ被相續人ニ對シテ有セシ權利義務ハ消滅セサルモノナリ權利カ義務者ニ歸屬シタル場合又ハ義務カ權利者ニ歸屬シタル場合ニ於テハ其履行ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ此ノ如キ混同アリタルトキハ權利義務ハ自然ニ消滅スヘキモノナリ然レトモ權利義務カ混同ニ因リテ消滅スルハ其履行カ不能ト爲ルニ基クモノナルカ故ニ若シ其履行カ不能ト爲ルニ非サル限リハ權利義務ハ同一ノ人ニ歸屬スルモ尙ホ依然トシテ消滅セサルコト當然ナリ被相續人カ相續人ニ對シテ權利ヲ有シ又ハ之ニ對シテ義務ヲ負フタル場合ニ於テ相續開始スルトキハ其權利ハ義務者タル相續人ニ歸屬シ其義務モ亦權利者タル相續人ニ歸屬スルニ至ルカ故ニ履行ノ不能ヲ生ゼ茲ニ權利者ノ消滅ヲ惹起スルカ如シト雖モ相續人カ限定承認ヲ爲シタルトキニ於テハ履行ハ決シテ不能ニ非ス被相續人ノ權利義務ハ相續人ニ移轉スト云フモ相續人ノ固有ノ權利義務トハ自ラ區別アリテ特別ノ財團ノ如キ狀態ヲ爲スカ故ニ相續人固有ノ義務ハ此特別財團ニ向テ辨濟ヲ爲シ得ヘク又相續人固有ノ權利ハ此特別財團ニ對シテ履行ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ其權利義務ハ消滅セスト爲シテ可ナリ殊ニ若シ其權利義務ハ混同ニ因リテ消滅スルモノト爲サハ相續人カ限定承認ヲ爲ゼタル趣意ト背馳スルニ至ルヘシ何トナレハ相續人カ限定承認ヲ爲スハ自己ノ財產ヲ以テハ相續上ノ義務ハ辨濟セス其代リ相續債權者又ハ受遺者ヲ害シテ自己ヲ利益セスト云フ趣意ナルニ其有セシ權利カ消滅ストセハ消滅シタル權利ト他ノ債權者及ヒ受遺者ノ權利トノ割合ニ於テ其受クヘカリシ財產丈ハ自己ノ財產ヲ以テ相續上ノ義務ノ辨濟ニ當テタルト同一ノ結果ト爲リ又其義務カ消滅ストセハ消滅セシ丈ノ義務ノ程度ニ於テハ相續債權者及ヒ受遺者ノ取ルヘキ部分ヲ與ヘスシテ自ラ利シタルモノト謂

フコトヲ得ヘキヲ以テナリ故ニ第千二十七條ハ相續人カ限定承認ヲ爲シタルトキハ其被相續人ニ對シテ有シタル權利義務ハ消滅セサリシモノト看做セリ而シテ第千二十七條ハ廣ク權利義務ト云フカ故ニ唯リ債權債務ノミナラス物上ノ權利義務モ亦消滅セサルモノナリト謂ハサルヘカラス

被相續人カ相續人ニ對シテ有セシ權利又ハ相續人カ被相續人ニ對シテ有セシ權利カ消滅セストセハ相續人ハ何人ニ對シテ其權利ノ實行ヲ爲シ其義務ノ辨濟ヲ求ムルコトヲ得ルカ民法及ヒ民事訴訟法ハ此點ニ付キ何等ノ規定ナシ故ニ規定ナキ所ニ於テ解釋ヲ爲セハ相續人ハ自己ニ辨濟ヲ爲シテ自ラ辨濟ヲ受クルモノナリト謂ハサルヘカラス唯其間ニ於テ正當ノ履行ナキ爲メニ利益ヲ害セラレタリトスル者アラハ其利害關係アルモノカ相續人ヲ被告トシテ訴訟ヲ爲シ得ルハ論ヲ俟タサルヘシ

(ハ)相續人ノ債權者ハ相續債權者及ヒ受遺者カ辨濟ヲ得タル後ニ非サレハ相續財產ニ付テ其權利ヲ行フコトヲ得ス第千二十五條ハ相續人ハ相續財產ノ限度ニ於テ相續債權者及ヒ受遺者ニ辨濟スヘキモノナルコトヲ定ムルモ相續人ノ債權者ハ相續債權者及ヒ受遺者カ辨濟ヲ受ケタル後ニ非サレハ相續財產ニ付テ其權利ヲ行フコトヲ得サルハ法律カ何レノ處ニ於テモ明言セス然レトモ此事ハ限定承認ヨリ生スル當然ノ效力ニシテ特ニ法律ノ明言ヲ俟タス蓋シ限定承認トハ相續人ノ固有財產ヨリ相續財產ヲ分離シテ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ハ其分離シタル財產ノ上ニ存スル負擔ナリトスルヲ以テ其反對ノ側面ニ於テハ相續人ノ義務ハ其固有財產ノ範圍ニシテ相續財產ニ付テハ相續債權者及ヒ受遺者カ全部ノ辨濟ヲ受ケテ其殘額カ相續人ノ固有財產ト混合シタルトキニ非サレハ之ニ及ハサルモノナルコトヲ意味セリ是レ甚タ至當ニシテ相續人ノ債權者タル者ハ限定承認アリタルニ因リテ相續債權者及ヒ受遺者ノ爲メニ害セラルルコトナキニ相續債權者及ヒ受遺者ノミ相續人ノ債權者ノ爲メニ害セラルルカ如キコトアリテハ甚タ不公平ナルカ故ニ雙方互ニ相侵ササルモノトセシハ至極相當ナリ

第二　限定承認ノ手續

第千二十六條ニ依リテ觀レハ相續人カ限定承認ヲ爲サントスルトキハ第千十七條

第一項ニ定メタル期間内ニ財産目錄ヲ作リ之ヲ裁判所ニ提出シテ自己ハ限定承認ヲ爲ス者ナルコトヲ申述セサルヘカラス即チ相續人カ限定承認ヲ爲サントセハ先ツ第一ニ財産目錄ヲ調製シテ相續財産ヲ正確ニ記載セサルヘカラス蓋シ限定承認ノ場合ニ於テハ相續人ハ相續財産ノ在ル限リニ於テ相續上ノ義務ヲ辨濟スルモノナルカ故ニ財産目錄ヲ作リテ相續財産ノ額ヲ明カニシ以テ辨濟スヘキ義務ノ範圍ヲ確定セサルヘカラサルコトハ相續債權者及ヒ受遺者ヲ保護スル上ニ於テ爾カセサルヘカラサルヲ以テナリ次ニ財産目錄ヲ裁判所ニ提出シテ限定承認ヲ爲スコトヲ申述スヘシ相續人カ限定承認ヲ爲シタルト單純ノ承認ヲ爲シタルトニ於テハ相續債權者及ヒ受遺者ニ取リテ大ナル利害關係アルヲ以テ其定メタル決意ハ確實ナル方法ヲ以テ之ヲ表示セサルヘカラス故ニ裁判所ニ申出テシメ其公認ヲ受ケシムルコトト爲シタリ相續ニ對スル決意ハ各相續人ハ獨立シテ其隨意ニ之ヲ定ムルコトヲ得ルモノナリ故ニ相續人ノ多數ナル場合ニ於テ其一人ハ限定承認ヲ爲サンコトヲ欲シ他ノ相續人ハ單純承認ヲ爲スコトヲ欲シタル場合ニ於テハ各相續人ハ各其見ル所ニ從ヒ於ケル支拂ノ場所(第四五四條)ノ三者是ナリ

(イ) 豫備支拂人ノ記載　豫備支拂人トハ其名ノ示ス如ク豫備ノ支拂人ニシテ其之ヲ設定スル主旨ハ本來ノ支拂人カ引受ヲ爲サス又ハ支拂ヲ爲ササル場合ニハ擔保請求又ハ償還請求ノ權利發動シ其結果トシテ多少ノ不便ト費用トヲ增スヲ以テ之ヲ除クカ爲メニ本來ノ支拂人ノ外ニ豫備支拂人ナルモノヲ前以テ記載シ其者ヲシテ支拂人カ引受ヲ爲ササルトキハ引受ヲ爲サシメ又支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキハ支拂ノ任ニ當ラシメ以テ擔保請求及ヒ償還請求ノ事情ヲ打消スニ在リ故ニ爲替手形ニ豫備支拂人ノ記載アル場合ニハ手形ノ所持人ハ支拂人ノ引受ヲ得サルトキハ則チ豫備支拂人ノ引受ヲ求ムルコトヲ要シ尙ホ豫備支拂人カ引受ヲ爲ササルニ至リテ始メテ前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ又支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキハ豫備支拂人ノ支拂ヲ求ムルコトヲ要シ豫備支拂人カ支拂ヲ爲ササルトキハ始メテ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス此等ノ點ニ付テハ後ニ手形ノ參加ト云フ一章ヲ設ケテ詳說スヘシ

(ロ) 支拂擔當者ノ記載　支拂擔當者ナルモノハ爲替手形ニ於テ支拂地カ支拂人ノ住所地ト異ナル場合ニ振出人ノ記載シ得ルモノナリ(第四五三條)故ニ支拂擔當者ノ說明ニ付テハ勢ヒ支拂地ト支拂人ノ住所地ト異ナル爲替手形ニ付キ一言辯明ヲ要ス此種ノ手形ヲ他地拂手形ト謂フ此種ノ手形ハ種種ノ便宜アリ例ヘハ支拂人ハ都府以外ニ住居シ其地ニ取引銀行ナキトキハ則チ其都府ヲ以テ支拂地ト定ムルコト頗ル便利ナリ又支拂人ハ東京ニ住スルモ大阪ニ於ケル甲ナル者ニ對シ債權ヲ有スルヲ以テ此債權ヲ以テ自己カ支拂人タル手形ノ支拂ニ充テントスルトキハ大阪ヲ以テ支拂地ト定メ甲ナル者ヲ以テ支拂擔當者トシテ支拂ノ任ニ當ラシムルコト頗ル便利ナリトス

此ノ如ク支拂地カ支拂人ノ住居地ト異ナル手形ニ付テハ別ニ支拂擔當者ナル者ノ設ナキニ於テハ支拂人ハ滿期日ニ自ラ支拂地ニ於テ支拂ノ任ニ當ラサルヘカラサル不便アルヲ以テ即チ此不便ヲ除クカ爲メニ支拂擔當者ナルモノヲ設ケテ支拂ノ任ニ當ラシムルニ在リ支拂擔當者ナル者ハ其名ノ示ス如ク單ニ支拂ノ機關タルニ過キス故ニ引受ハ支拂人ノ爲スヘキモノトシテ支拂擔當者ノ爲スヘキモノニ非ス而シテ支拂擔當者カ支拂ヲ爲ス義務ハ支拂人又ハ振出人トノ間ノ委任關係ニ基クモノニシテ手形上ノ義務ニ非ス唯此委任關係アルトキハ手形金額ヲ手形ノ所持人ニ支拂フヘキコトノ民法上ノ義務ヲ支拂人又ハ振出人ニ對シテ負擔スルニ過キス手形ノ所持人ニ對シテハ手形上ノ義務モ又民法上ノ義務ヲモ負擔セサルナリ

爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載アルトキハ所持人ハ支拂擔當者ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メサルヘカラス支拂擔當者カ支拂ヲ爲ササルトキハ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得若シ支拂擔當者ノ記載アルニ拘ハラス所持人カ此手續ヲ爲ササルトキハ前者ニ對スル手形上ノ權利ハ勿論既ニ支拂人カ引受ヲ爲シタル手形ナルトキハ引受人ニ對スル權利ヲモ失フ(第四九〇條)

(ハ) 支拂場所ノ記載　支拂地ハ爲替手形ノ記載要件ノ一ナリト雖モ支拂ノ場所ハ其要件ニ非ス然レトモ振出人ハ手形ヲ振出スニ當リ支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載シ以テ手形上ノ效力ヲ生セシムルコトヲ得(第四五四條)此支拂ノ場所ハ必ス支拂地內ニ於ケルモノナルヲ要ス支拂地外ニ於ケルモノナルトキ

ハ支拂地カ結局二箇ト爲ルコトト爲ルヘク隨テ支拂地ノ效力ヲ不明ナラシムルニ至ルヲ以テ到底許スヘカラス

手形ニ支拂ノ場所ヲ記載シタルトキハ手形ノ呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ハ其場所ニ於テ爲スコトヲ要ス此點ニ付テハ特ニ明文ノ設ナシト雖モ支拂ノ場所ヲ記載シ之ニ手形上ノ效力ヲ付與スル精神ヨリ解釋セハ疑ナキ所ナリ尙ホ此點ニ付テハ第四百四十二條ノ規定ヲ論スルニ際シ詳述スル所アルヘシ

(三)　手形當事者ノ複數

手形法中各手形當事者カ二人タリ得ルヤ否ヤ別ニ規定スル所ナシト雖モ一般ノ手形法規ノ精神ニ背カサル以上ハ各當事者カ二人以上ト爲ルコトヲ妨ケス今左ニ各場合ニ付キ說明スヘシ

(イ)　支拂人　支拂人ハ同一支拂地ニ於ケルモノナルトキハ二人以上タルコトヲ妨ケス蓋シ同一支拂地ニ於ケルモノナルトキハ縱令二人以上ト爲ルモ之カ爲メニ手形ノ支拂ヲ不確實ニスヘキ理由ナク手形法ニ支拂地ナルモノニ一定ノ效力ヲ付與シタル精神ト牴觸スル所ナシト雖モ若シ支拂地ヲ異ニスル支拂人ヲ設定スルトキハ結局支拂地ノ記載カ二箇以上ト爲リ手形債權ノ實行カ不確實ト爲ルヲ以テ此場合ニハ手形ハ無效ナリ

同一支拂地ニ於ケル支拂人カ二人以上ナルトキハ所持人ハ其中何レノ支拂人ヲ擇ヒテ支拂ヲ請求スルモ妨ナシ然レトモ不支拂ヲ理由トシテ前者ニ對シ償還請求權ヲ行使セントスルニハ總テノ支拂人カ支拂ハサリシ場合ナラサルヘカラス故ニ支拂人ノ一人カ一部ノ支拂ヲ爲スカ又ハ全部ノ支拂ヲ爲ササルトモ所持人ハ直チニ前者ニ對シテ償還ヲ請求スルコトヲ得ス尙ホ他ノ支拂人ニ對シテ支拂ヲ求メサルヘカラス隨テ支拂拒絶證書ハ全支拂人カ支拂ヲ拒絶シタル旨ヲ記載セサルヘカラス

支拂人ノ選擇表示ハ手形債權ノ實行ヲ不確實ナラシムルヲ以テ無效ナリ例ヘハ甲又ハ乙ニ宛テ振出シタル手形ハ無效ナルカ如シ蓋シ此ノ如キ場合ニ所持人カ例ヘハ甲ニ支拂ヲ請求シ拒絶セラルルトスルモ若シ乙ニ支拂ヲ請求シタランニハ或ハ乙ハ支拂ヲ爲シタルヤモ知レス故ニ此ノ如キ場合ニハ其手形ノ支拂又ハ不支拂カ支拂人ヲ甲ニ擇フト乙ニ擇フトニ依リテ異ナルコトト爲リ

隨テ手形金額ノ支拂ヲ不確實ナル狀態ニ在ラシムルヲ以テ到底無效ナリト謂ハサルヘカラス

(ロ) 受取人　受取人モ亦二人以上タルコトヲ得而シテ支拂人ノ場合ト異ナリ選擇表示ヲ爲スコトヲ得受取人カ多數ナル場合トハ其手形上ノ權利ハ共同スルニ非サレハ行使スルコトヲ得ス又其權利ノ讓渡モ共同ニ署名スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ手形上ノ權利ノ行使ハ常ニ手形ナル書面ニ伴フヲ以テ此等ノ受取人ハ共同スルニ非サレハ他ニ手形上ノ權利行使ノ途ナケレハナリ

受取人ヲ甲又ハ乙殿ト云ヘルカ如ク選擇表示ヲ爲シタルトキハ支拂人ハ甲又ハ乙ノ何レニ支拂フモ差支ナク又裏書ハ其二人中何レカ一人ノ署名アレハ完全ニ成立シ手形債權ノ實行ヲ不確實ナラシムヘキ事情少シモ存在セサルヲ以テ支拂人ノ場合ト異ナリ之ヲ無效トスヘキ理由ナシ

(ハ) 振出人　振出人モ亦二人以上タルコトヲ得約束手形ニ在リテハ同一振出地又支拂地ノ記載アル場合ニハ同一支拂地内ニ於ケルモノナルコトヲ要セトモ爲替手形ニ在リテハ振出地ヲ要件トセサルヲ以テ斯ル制限ナシ

上來述ヘタル所ニ依リ爲替手形ノ振出ニ伴フ要件竝ニ附隨ノ記載事項及ヒ手形ノ諸種ノ形式ニ付キ大略ノ說明ヲ終ヘタリ。

偖テ振出人カ此ノ如クシテ手形ヲ振出シタルトキハ法律ノ規定ニ依リ一定ノ手形上ノ責任ヲ負擔ス第一ハ引受ニ付テ第二ハ手形ノ支拂ニ付テノ責任是ナリ蓋シ振出人カ手形ヲ振出ス以上ハ一定ノ時期ニ一定ノ金額ヲ受取人又ハ其指圖人ニ支拂ハシムヘキヲ保證スルモノナルヲ以テ第一ニ順序トシテ手形ノ引受即チ支拂人カ一定ノ期日ニ手形金額ヲ支拂フヘキ手形上ノ義務ヲ負擔スヘキ行爲ニ付キ振出人ハ之ヲ擔保ス故ニ所持人カ引受ヲ得サリシトキハ振出人ハ所持人ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供セサルヘカラス第二ニハ支拂ヲ得サリシトキハ振出人ノ請求ニ依リテ之ヲ償還セサルヘカラス此等ノ責任ハ契約ノ有無ニ拘ハラス法律上當然負擔セル手形上ノ義務ニシテ第四百七十四條及ヒ第四百八十六條ニ前者ト云ヘル中ニハ振出人ヲ包含ス而シテ振出人ハ一タヒ手形ヲ振出シタル以上ハ當然法規ニ依リテ擔保義務ヲ負擔スルモノニシテ

如何ナル方法ヲ以テスルモ之ヲ免ルルコトヲ得ス第四百五十九條ニ依レハ手形ノ裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當リテ手形上ノ責任ヲ負ハサルコトヲ記載スルコトヲ得ト雖モ振出人ニ付テハ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ許サス蓋シ振出人ハ手形ノ作成者ニシテ其作成者カ自己カ振出シタル手形ノ引受ト支拂トニ付テ責任ナシト云フコトハ到底手形ノ信用上許スヘカラサルコトナレハナリ其他振出人ハ不當利得返還ノ義務(第四四四條)及ヒ複本交付ノ義務(第五一八條)ヲ負フト雖モ此等ハ必然ノ義務ニ非ス

第二章　裏書

爲替手形ノ經濟上ニ於ケル作用ハ全ク其流通カ容易ナルニ基カスンハ非ス前節ニ述ヘタル所ニ依リテ手形ハ作成セラレタリト雖モ其手形ハ唯受取人ノ手ニノミ入リ直チニ受取人ニ支拂ハレテ消滅スルモノニ非ス多クノ場合ニ受取人以下ノ多數ノ當事者間ニ流通シ然ル後支拂ハレテ消滅スルヲ常トス以下其流通ニ付テ説明セン

手形ノ流通ニハ所謂裏書ニ依ルモノト單ニ交付ノミニ依ルモノトノ二種アリ交付讓渡ハ手形カ無記名式ナルトキ及ヒ第四百五十七條第二項ニ依リ所謂白地裏書ヲ爲シタル場合ニ起ルモノトス此二ツノ場合ニハ手形ハ何等ノ方式ヲ要スルコトナク單ニ交付ノミニ依リテ當事者間ニ輾轉流通スルモノニシテ最モ容易ナル流通ノ方法ナリ交付讓渡ニ付テハ別ニ説明ヲ要スルモノナキヲ以テ直チニ手形ニ特別ナル裏書ニ依ル流通ニ付キ説明スヘシ

裏書ハ手形ニ伴フ所ノ普通ノ要素ナリ故ニ振出人カ明カニ反對ノ記載ヲ爲ササル以上ハ爲替手形カ記名式ナルトキト雖モ仍ホ裏書ニ依リ之ヲ讓渡スコトヲ得(第四五五條)然レトモ裏書ハ必スシモ手形ニ伴フ絶對的必要條件ニ非サルヲ以テ振出人ハ之ヲ禁スルコトヲ得(第四五五條但書)此種ノ手形ニ付テハ後段ニ詳述スヘシ

次ニ注意スヘキハ新商法ニ於テハ舊商法ニ於ケルカ如ク手形ノ裏書ヲ爲シ得ルカ爲メニ振出ノ際指圖人ニ支拂フヘキ旨ノ記載アルコトヲ要件トセス即チ指圖式ニテ振出スノ必要ナク普通ノ記名式ニテ振出シタルトキト雖モ反對ノ

記載ナキ以上ハ當然之ヲ裏書シ得ルモノトス例ヘハ振出人カ「甲殿ニ御支拂可被成」トシテ振出シタル手形ハ第四百五十五條前段ノ規定ニ依リ恰モ「甲殿又ハ同人指圖人ニ云云」ト記載シタルカ如ク受取人甲ハ指圖人ヲ指定スルコトヲ得換言スレハ自由ニ之ヲ裏書スルコトヲ得ルモノトス

第一節　裏書ノ方式

普通ノ完全ナル裏書ハ第四百五十七條第一項ヲ以テ之ヲ規定セリ即チ裏書ハ爲替手形、其謄本又ハ補箋ニ被裏書人ノ氏名又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人カ署名スルニ依リテ之ヲ爲ス故ニ裏書ニハ左ノ要件ヲ必要トス

第一　裏書ヲ記載スヘキ書面ハ爲替手形其モノナルカ或ハ其謄本ナルカ又ハ其補箋ナルコトヲ要ス

爲替手形其モノニ記載シテ裏書シ得ルハ論ヲ俟タス又謄本ニ記載スルコトヲ許セシハ流通ノ便利ヲ圖ルカ爲メナリ(此點ハ謄本ノ章ニ詳述スヘシ)又補箋ニ裏書スルヲ許シタルハ多數ノ裏書アル場合ニ本手形面ノ狹隘ヲ感スル場合ニ之ニ付箋シテ裏書ヲ記載スル必要アルヲ以テナリ

第二　被裏書人ノ氏名又ハ商號

即チ裏書ニ因リテ新ナル手形上ノ債權者タルヘキ者ノ氏名カ又ハ商號ヲ記載セサルヘカラサルナリ

第三　裏書ノ年月日

裏書ノ年月日ヲ記載スル效力ノ大體ヲ述フレハ(一)手形ノ變造アリタル場合ニ其署名カ變造前ナリシヤ變造後ナリシヤヲ確ムル標準ト爲ル(二)裏書ノ當時裏書人カ能力者ナリシヤ否ヤヲ識別スルノ標準ト爲ル(三)裏書人カ支拂ヲ停止シタル場合ニ其停止ト裏書トハ何レカ前ナリシヤヲ知リ(四)裏書カ拒絕證書作成期間ノ經過シタル前ナルヤ後ナルヤヲ知ルニ必要ナリ

第四　裏書人ノ署名

裏書モ亦一種ノ手形行爲ナリ隨テ他ノ一般ノ手形行爲ト同シク裏書人ノ署名ヲ要ス

第二節　裏書ノ性質

裏書ハ手形上ノ債權者カ他人ヲシテ新ナル手形上ノ債權者タラシメンカ爲メニ爲ス要式的ノ意思表示ニシテ附隨ノ手形行爲ナリ

裏書モ亦一種ノ手形行爲ナルヲ以テ他人ヲシテ債權者タラシムルノ意思ハ必ス書面ノ上ニ現ハレサルヘカラス其書面ハ手形、其謄本又ハ補箋ナルコトヲ要ス其以外ノ書面又ハ口頭ヲ以テ其意思ヲ表示スルモ手形ノ裏書タル效力ヲ生セス而シテ又他ノ手形行爲ト同シク一定ノ方式ヲ必要トス其形式ハ前既ニ述ヘタルカ如シ

裏書ハ手形上ノ債權者カ他人ヲシテ自己ノ地位ニ代リテ手形上ノ債權者タラシムルモノナリト雖モ其移轉スヘキ債權ハ形式上存在スレハ足レリ必スシモ實質上存在スルヲ必要トセス例ヘハ受取人カ爲造手形タルコトヲ知ラスシテ之ヲ受取リ而シテ其手形ヲ裏書スル場合ノ如キハ受取人ハ形式上手形債權者ナルモ實質上ノ手形債權者ニ非ス隨テ手形債權ハ此場合ニハ實質上存在セサルモノト謂ハサルヘカラス然レトモ受取人カ一度眞正ノ裏書ヲ爲ス以上ハ其被裏書人ハ純然タル手形上ノ權利ヲ實質上有スルコトト爲ル故ニ此場合ニ於テハ裏書ハ權利移轉ノ行爲ニ非スシテ權利設定ノ行爲タルナリ然レトモ此ノ如キ效力ヲ生スルニ付テハ少クトモ形式上完全ナル手形ノ存在スルコトヲ要件トス若シ形式上完全ナル手形ニ非サルトキハ縱令裏書ノ方式ニ於テ完全ナリトスルモ其裏書ハ所謂裏書タル效力ヲ生セス是レ即チ裏書カ附隨ノ手形行爲タル所以ナリ

裏書ハ他人ヲシテ手形上ノ債權者タラシムト雖モ單ニ裏書人ノ署名ノミニテハ此效力ヲ生セス即チ其手形ヲ債權者タラントスル者ニ交付シテ手形ノ占有ヲ得セシメサルヘカラス是レ即チ手形上ノ權利ハ常ニ手形ナル書面ト共ニ活動シ其書面ヲ離レテ手形上ノ債權ナシト謂フ當然ノ結果ナリ

第三節　裏書ノ效力

裏書ノ效力ハ大別シテ左ノ四ト爲スコトヲ得

第一　裏書人カ擔保義務ヲ負擔スルコト

第二　被裏書人ヲ手形上ノ權利者ト爲スコト

第三　手形ノ所持人カ正權限ヲ有スル證明力アルコト

第四　更ニ手形ヲ讓渡スコトヲ得ルコト

第一項　裏書人ノ擔保義務

裏書人ハ裏書ニ因リテ擔保義務ヲ負擔ス即チ普通ノ裏書ヲ爲セハ其裏書人ハ被裏書人ニ對シテ擔保ノ請求又ハ償還ノ請求ニ應スヘキ義務ヲ負擔ス此等ノ義務ハ後者ノ全員ニ對シテ負擔スル所ノ法律上ノ義務ニシテ手形ノ所持人ハ前者ノ何レニ對シテモ其權利ヲ主張スルコトヲ得必スシモ順次ニ遡リテ其權利ヲ主張スルノ必要ナシ而シテ此ノ如キ義務ハ法律ノ規定ニ依リテ當然負擔スル所ニシテ手形ニ明記シテ之ヲ負ハサル旨ヲ示スニ非サレハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス第四百七十四條ニ依レハ支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シテ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求シ得ル旨ヲ規定シ又第四百八十六條ニ依レハ支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シ償還請求ヲ爲シ得ル旨ヲ規定セリ玆ニ前者ト云フハ裏書人ヲ包含ス

第二項　被裏書人ノ權利

普通裏書ノ第二ノ效力ハ手形上ノ權利ヲ被裏書人ニ付與スルコト是ナリ即チ全ク新ナル手形權利者ヲ作ルモノニシテ被裏書人ハ恰モ其手形ヲ振出人ヨリ直接ニ得タル如ク支拂人ニ對シテ引受ヲ求メ又引受ナケレハ擔保ヲ請求スルコトヲ得又支拂ヲ求メ若シ其支拂ノ容レラレサルトキハ償還ヲ請求スルコトヲ得而シテ其被裏書人ノ得タル權利ハ裏書人ノ有スル瑕疵ニ關係ナク全然手形文面通ノ權利ヲ取得ス其手形文面以外ノ抗辯ヲ以テ自己ノ權利ヲ左右セラルルコトナシ其最モ著シキ場合ハ裏書人カ僞造ノ裏書ニ因リテ手形ヲ取得シタル場合ナリ此場合ニハ僞造者ハ手形上ノ權利ヲ有セスト雖モ裏書ハ形式上ノ連續ニ於テ缺クルコトナク且被裏書人カ惡意又ハ重大ナル過失ナケレハ完

全ニ手形上ノ權利ヲ取得ス此等ノ點ヨリ觀レハ被裏書人ハ新ナル獨立ノ權利ヲ取得スルモノト謂ハサルヘカラス

第三項　被裏書人ノ權限證明ノ效力

裏書ハ手形所持人カ其手形ヲ取得スルニ付テ權限ヲ有スルコトノ證明力ヲ有ス前述ノ第一、第二ノ效力ハ裏書ニ伴フ必然ノ效力ニ非サルモ此第三ノ權限證明ノ效力ハ如何ナル種類ノ裏書ニモ存在スルモノニシテ裏書ニ伴フ必然ノ效力ナリ蓋シ裏書ニ因リテ手形ヲ取得シタル者ハ他ニ何等ノ證明方法ヲ用フルコトナクシテ裏書ノ連續ノミニ依リテ自己カ手形ニ付テノ正當ノ或權利者ナルコトヲ證明スルコトヲ得ルヲ謂フ然レトモ其效力ヲ生スルニ付テハ二ノ條件ヲ要ス其一ハ被裏書人カ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ手形ヲ取得シタルコト(第四三七條、第四四一條)其二ハ裏書カ形式上連續スルコト(第四六四條)是ナリ

明瞭ナリ。

第三節　個人ノ公權ノ種類

個人ノ公權ハ之ヲ三大種目ニ區別スルコトヲ得。(一)個人ハ國家ノ權力ニ服從スルモノナリト雖モ、此ノ服從ノ義務ハ無制限ナル服從ニ非ラズ。國家ハ自ラ其ノ權力ニ制限ヲ加ヘ其ノ制限ノ以外ニ於テハ個人ノ服從ヲ要求スルコトナシ、此ノ制限ニ因リテ個人ハ國家ニ依リテ侵サレザル意思ノ自由ノ範圍ヲ得、此ノ範圍內ニ於テハ個人ハ國家ニ對シ其ノ不行爲ヲ要求スルノ權利ヲ有スルナリ。國家ノ不行爲ニ對スル權利ハ個人ノ公權ノ第一種ナリ。(二)國家ハ當ニ自ラ其ノ權力ヲ制限シテ、國家ノ權力ニ服從セザル個人ノ自由ノ範圍ヲ認ムルノミナラズ、又積極ニ個人ニ對シテ種種ノ利益ヲ供ス國家ガ個人ニ對シテ利益ヲ供スルハ或ハ唯公共ノ利益ノ爲ニスル各種ノ制度ノ間接ノ結果ニ過ギザルコトアリ、或ハ個人ニ附與スルニ自己ノ利益ノ爲メニ國家ノ行爲ヲ要求スルノ力ヲ以テスルコトアリ。前ノ場合ニ於テハ個人ハ之ニ依リテ受タル所ノ利益ハ唯法ノ反射

ニ過ギズ、後ノ場合ニ於テハ個人ハ國家ノ行爲ヲ要求スルノ權利ヲ附與セラルルナリ。國家ノ行爲ニ對スル權利ハ個人ノ公權ノ第二種タリ。(三)國家ハ團體的人格ナルガ故ニ國家ノ活動スルガ爲ニハ、自然人ニ依リテ其ノ意思ヲ代表セラレザル可カラズ、國家ノ爲ニ作用ヲ爲シ其ノ意思ヲ外表スル所ノ自然人ハ即チ國家ノ機關ナリ、國家ハ其ノ自ラ定ムル所ノ法ニ隨ヒテ個人ヲシテ國家ノ機關タルノ地位ヲ得セシム。個人ヲシテ國家ノ機關タラシムルニハ或ハ箇人ニ其ノ義務ヲ課スルニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ベク、或ハ個人ニ之ガ權利ヲ認ムルニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ベシ。後ノ場合ニ於テハ箇人ハ國家ノ機關タル地位ヲ承認セラルルノ權利ヲ生ズ。國家機關ノ地位ニ對スル權利ハ個人ノ公權ノ第三種ナリ。

第一款　國家ノ不行爲ニ對スル權利

國家ノ不行爲ヲ要求スルノ權利ハ通常自由權ノ名ニ依リテ知ラルルモノナリ。此ノ名稱ハ既ニ久シク一般ニ慣用セラルルモノナルガ故ニ必ズシモ之ヲ排斥スル可キニ非ラズ。然レドモ其ノ名稱ハ往往ニシテ誤解ヲ招キ易シ、所謂自由權トハ自由ニ特定ノ行爲ヲ爲シ得ルノ能力ヲ意味スルモノニ非ラズ、唯國家ガ違法ニ其ノ自由ヲ侵害セザランコトヲ要求スルノ權利タリ、積極ニ或ル行爲ヲ爲シ得ル能力ガ其ノ權利ノ內容ヲ爲スニ非ラズシテ、消極ニ國家ノ不行爲ヲ要求シ得ル能力ガ其ノ權利ノ內容タルナリ。出版ノ自由トハ自己ノ欲スル出版ヲ爲シ得ルコトヲ意味スルニ非ラズ、出版ヲ爲スコト其レ自身ハ尙ホ睡眠ヲ爲シ散步ヲ爲スト等シク、自然的ノ自由タリ。何人モ國家ニ對シ睡眠ノ權利ヲ有シ散步ノ權利ヲ有ストイフ能ハザルト同ジク、亦出版ノ權利ヲ有スルニ非ラズ、出版ノ自由トハ唯法規ニ基ク制限ノ外ニハ出版ヲ禁止シ妨害セラレザルノ權利ナリ。自由權ガ權利ナルヤ否ヤハ學者ノ爭フ所タリ。一派ノ學者ハ所謂自由權ハ唯官廳ノ權限ヲ制限スルノ規定ニ止マリ之ニ依リ個人ノ權利ヲ發生スルモノニ非ラズト爲ス。其ノ說ハフォン、グルバーヲ初メトシテラバント、ザイデル等有力ナル學者ノ主張スル所ニ係リ數多ノ學者ノ贊同スル所タリ。例ヘバラバントハ曰ク自由權トハ國權ガ自ラ加フル所ノ制限ニ外ナラズ、之ニ依リテ官廳ノ權限ヲ

制限シ特定ノ範圍ニ於テ箇人ノ自然的ノ行爲ノ自由ヲ保障スルモノナリト雖モ箇人ノ權利ハ之ニ依リテ發生スルコトナシ『是レ權利ニ非ラズ何トナレバ其ノ目的物アラザレバナリ』ト。

成ル程自由權ノ內容ヲ爲セル行爲ハ個人ノ天然ノ自由ニシテ國家ガ自由權ヲ認ムルニ由リテ始メテ其ノ力ヲ附與セラルルニ非ラズ、散步睡眠ガ天然ノ自由タルト同ジク集會、出版、營業モ亦天然ノ自由ナリ、所謂自由權ハ唯此ノ天然ノ自由ヲ承認スルモノニ外ナラズ。然レドモ法ガ此ノ天然ノ自由ヲ保護シ官府ノ權力ヲ制限シテ一定ノ範圍以外ニ於テハ此ノ自由ヲ侵害セザランコトヲ保障スルニ於テハ、天然ノ自由ハ變ジテ法律上ノ自由トナリ箇人ハ國家ニ對シテ其ノ自由ヲ侵害スル國家ノ行爲ヲ廢止スルノ要求權ヲ取得ス、是レ即チ箇人ノ權利ナリ。

若シ官廳ニシテ此ノ制限ヲ超越シテ不法ニ個人ノ自由ヲ侵害スルニ於テハ、個人ハ行政訴訟等、法ノ認ムル所ノ手段ニ依リテ之ガ救濟ヲ求ムルヲ得ベシ。個人ガ此ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル所以ハ個人ノ權利ガ侵害セラレタレバナリ。

權利ノ侵害アルガ故ニ始メテ訴權ヲ生ズ。若シ自由權ニシテ權利ニ非ラズトセバ權利ノ侵害モナク隨テ訴權モナシ。自由權ノ權利タルコトヲ認ムルニ非ラザレバ如何ニシテ其ノ訴權ヲ發生スルノ所以ヲ說明スルヲ得ベキカ。

自由權ガ個人ノ權利タルコトハ今日ニ於テモ尙ホ一般ノ通說タリ。此ノ通說ニ反シテ强テ之ヲ以テ權利ニ非ラズト主張スルノ理由ハ未ダ之ヲ見ルコトヲ得ザルナリ。

法律ノ明文ヲ以テ個人ノ自由權ヲ保障スルコトハ北亞米利加諸州ノ憲法ニ其ノ端ヲ發シ其ノ影響ノ下ニ於テ千七百八十九年ノ佛國人權及ヒ公民權宣言ニ於テ數多ノ自由權ヲ列擧シ、次デ千七百九十一年ノ佛國憲法中ニ之ヲ加ヘテヨリ以來、歐洲大陸ノ諸國ノ憲法ハ何レモ之ヲ模範トシテ多クノ自由權ノ列記ヲ爲サザルモノナシ(獨リ獨逸帝國憲法ハ其例外ナリ)。我國ノ憲法モ亦其ノ第二章ニ於テ此ノ如キ自由權ヲ列擧シタリ

憲法ニ於テ此等ノ自由權ヲ保障スル立法ノ目的ハ二樣ナリ。其ノ一ハ立法權ニ對シテ制限ヲ加ヘントスルモノニシテ、他ノ一ハ行政權ニ對シテ制限ヲ加フル

ニ在リ。立法權ニ對スル制限ハ自由權ヲ列擧ノ最初ノ模範タリシ米國諸州ノ憲法及ビ佛國人權宣言ニ於テハ殊ニ著ルシク、即チ法律ノ制定ニ於テモ或ル種ノ自由權ニ對シテハ一定ノ範圍外ノ制限ヲ加フルコトヲ禁止シ、若クハ特定ノ原則ニ隨テ立法ヲ爲スコトヲ命ズルニ在リ。然レドモ此ノ如キ立法權ノ制限ハ違憲ノ法律ヲ審査シ其ノ無效ヲ宣言シ得ベキ機關ノ設アルニ非ラザレバ實際ニ於テ何等ノ法律上ノ效果ヲ生ズルコト能ハズ、法律ハ假令憲法ニ違反シタル規定ヲ設クト雖モ尙ホ完全ニ其ノ效力ヲ有スルコトヲ妨ケザレバナリ。隨テ又此ノ如キ立法權ノ制限ニ依リテハ決シテ個人ノ權利ヲ發生スルコトナシ、立法權ニ對シテハ個人ハ毫モ權利ヲ有スルコト能ハザルモノナリ。

我國ノ憲法ニ於ケル自由權ノ列擧ハ立法權ヲ制限スルノ目的ニ出ヅルモノハ僅ニ一二ノ事項アルノミ。其ノ最モ著ルシキモノハ官職其ノ他公ノ職務ニ就キ得ル能力ニ付テ日本臣民ハ「均シク」其ノ能力ヲ有スベキコトヲ保障セルノ規定是ナリ。即チ法律ヲ以テスルモ此ノ點ニ付テ階級的ノ特權ヲ付シ、或ル種ノ階級ニノミ公務ニ就キ得ルノ能力ヲ附與スルハ憲法ノ禁ズル所タルナリ。然レドモ

是レ實際ニ於テ立法權ガ其ノ能力ニ階級的ノ等差ヲ付スルコトヲ妨グルコト能ハズ、其ノ違憲ナリヤ否ヤノ解釋權ハ專ラ立法權自身ニ屬ス、立法權ニシテ自ラ之ヲ違憲ナラズト認メテ制定シタル以上ハ何人モ其ノ違憲ナルコトヲ主張スルノ力ヲ有セザルナリ。憲法上立法權ヲ制限シタル他ノ一例ハ信教ノ自由ヲ保障スルノ規定ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得、然レドモ此ノ場合ニ於テモ假令法律ヲ以テ安寧秩序ヲ妨ゲス又臣民タル義務ニ背カザル宗教ヲ禁止スト雖モ臣民ハ毫モ之ガ救濟ノ手段ヲ有セズ。立法權ニ對シテハ臣民ハ何等ノ權利ヲモ主張スルコトヲ得ザルモノナリ。

自由權ノ保障ニ由リテ個人ノ權利ヲ生ズルハ專ラ行政權ニ對シテ制限ヲ加フルノ場合ニ在リ。而シテ我國ノ憲法ニ於ケル自由權ノ列擧ハ大部分ハ此ノ目的ノ爲メニセルモノナリ。法律ヲ以テスルトキハ自由權ニ對シテ如何ナル制限ヲモ加フルコトヲ得ベシ、假令憲法ニ違反スト雖モ裁判官ハ之ガ審査權ヲ有セズ其ノ違由ノ效力ニ於テ毫モ適憲ノ法律ト異ナル所ナキナリ。然レドモ行政權ニ於テハ事全ク之ト異ナリ。行政權ノ制限ハ法律上實際ニ其ノ效果ヲ有シ之ニ依

リテ個人ノ權利ヲ發生ス。

行政權ニ對スル制限モ亦之ヲ二ツニ別ツコトヲ得、一ハ命令權ニ對スル制限ニシテ、一ハ處分權ニ對スル制限ナリ。命令權ニ對スル制限ハ或ル種ノ事項ニ關シテハ命令ヲ以テ個人ノ自由ヲ制限スルコト能ハズト爲スニ在リ、處分權ニ對スル制限ハ法律ノ根據アルニ非ラザレバ處分ヲ以テ個人ノ自由ヲ侵害スルコト能ハズト爲スニ在リ。

命令權ノ制限ハ其ノ外形ニ於テ稍立法權ノ制限ト相類似スルガ如シ。命令モ亦國權ノ一ノ作用トシテ其レ自身ニ適法ヲ證明スルノ力ヲ有ス、命令ニシテ發布セラレタル以上ハ個人ハ自己ノ見解ニ依リテ其ノ違法ヲ主張スルノ力ヲ有セザルガ如シ。然レドモ命令ハ法律ト異ナリテ其ノ適法ナルヤ否ヤニ付テ自ラ最高ノ解釋權ヲ有スルモノニ非ラズ、法律ハ裁判官ノ審査權ニ服セザルニ反シテ命令ハ其審査ニ服ス。裁判官ハ命令ニシテ違憲又ハ違法ナリト思惟スルニ於テ其ノ適用ヲ拒ムノ權ヲ有スルナリ。是レ命令權ノ制限ガ立法權ノ制限ト全ク其ノ性質ヲ異ニスル所以ニシテ、個人ノ權利ガ之ニ依リテ發生スルハ是ガ爲メナヲ爲スコト

第七　勞働者保護ノ爲メ特別ノ監督官廳ヲ設ケテ工場所有主ノ諾否ニ關ラス強制シテ工場ノ監督ヲ爲スコト

勞働者ノ疾病及ヒ災害ニ對スル保險ハ勞働者保護ノ目的ノ爲メニ極メテ必要ナル制度ナリ獨逸ハ又千八百八十三年ヨリ同八十五年ニ亘リ勞働者ノ疾病及ヒ災害ニ對スル保險ニ關シテ法律ヲ制定シ疾病及ヒ災害ノ場合ニ於ケル十分ナル救助ヲ與フルコトト爲ス此等ノ法規ハ保險制度ヲ原則トシテ勞働者ヲシテ其日給ノ中ヨリ幾分ノ掛金ヲ爲サシメ其疾病災害ノ場合ニ十分ナル救助ヲ與フルノ規定ヲ爲ス千八百八十九年ニハ老衰及ヒ癈疾ニ對スル保險法制定セラレタリ

第四　商業

商業トハ貨物ノ循還ヲ目的トスル營業ナリ商業ハ私法上ノ關係ニシテ其關係ハ商法ノ規定スル所ナリ然レトモ國家ハ行政ノ目的ノ爲メニ之ヲ保護奬勵スルノ施設ヲ爲シ法規ヲ設ケサルヘカラス而シテ商事ニ關スル國家ノ施設ハ之

カ助長奬勵ヲ目的トスル事實上ノ設備其多キニ居リ法規トシテ論スヘキモノ極メテ少シ

市場及ヒ取引所ニ於ナスル商業ニ關シテハ各國特別ノ取締ノ規定ヲ設ク市場トハ商人及ヒ之ト取引ヲ爲ス者カ取引ヲ爲スカ爲メニ定期ニ集合スル場所ヲ謂フ其現物ニ付テ取引ヲ爲サス專ラ相場價額ニ付テ取引ヲ爲スモノヲ取引所ト爲ス一般市場ニ付テハ我現行法ニ別段ノ規定ナシ取引所ニ關シテハ明治二十六年三月法律第五號取引所法アリ此法律ニ依レハ取引所ハ賣買取引ノ繁盛ナル地區內ノ商人カ一種又ハ數種ノ物件ノ取引ヲ爲スカ爲メニ設立スルモノニシテ其設立ニハ許可ヲ要ス取引所ハ土地、商業ノ狀況及ヒ賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リテ會員組織ト爲シ又ハ株式會社組織ト爲スコトヲ得會員組織ノ取引所ニ於テハ其取引所ノ仲買人及ヒ會員ニ限リテ取引ヲ爲スコトヲ得株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其取引所ノ仲買人ニ限リテ取引ヲ爲スコトヲ得組織セラレタル取引所ハ之ヲ法人トシ財產ヲ所有シ又之ヲ處分スルコトヲ得ルモノニシテ其責任ハ有限ナリ

取引所ノ會員株主及ヒ仲買人タラントスル者ハ帝國臣民ニシテ法律ニ定メタル一定ノ條件及ヒ資格ヲ具フルコトヲ要ス取引所ノ會員トハ專ラ自己ノ計算ニ於テ取引所ニ於テ取引スル者ニシテ仲買人トハ自己又ハ他人ノ計算ニ於テ取引所ニ於テ取引スル者ナリ取引所ハ農商務大臣ノ監督ニ服シテ其行爲法律、命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若クハ公衆ノ安寧ニ害アリト認ムルトキハ農商務大臣ハ取引所ノ解散停止ヲ命スル等必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲ス

第五　商業會議所

商工業ノ發達ヲ圖リ其弊害ヲ矯正スル行政ノ作用ヲ助成スル目的ヲ以テ公共團體ヲ設置セシムルハ各國ニ行ハルル所ナリ之ヲ商業會議所ト爲ス明治三十五年三月法律第三十一號商業會議所法ニ依レハ商業會議所ハ市町村等ノ區域ニ依リテ其區域內ニ於テ法律ニ依リテ議員ノ選擧權ヲ有スル者ノ一定ノ數ノ發起ノ同意ヲ得且農商務大臣ノ認可ヲ經テ設立スルモノニシテ法人タリ其業務權限ハ法律ニ之ヲ列擧セリ皆商工業ノ發達ヲ圖リ其弊害ヲ矯正スル官廳ノ

作用ヲ助成スルノ目的ヲ有ス故ニ商業會議所ハ國家ノ機關タル公共團體ナリ商業會議所ハ選擧セラレタル議員ヲ以ヲ組織シ其選擧及ヒ被選擧ノ資格ノ要件ハ法律ニ之ヲ規定ス選擧ニ由ル議員ノ外地方長官ノ任命ニ由ル特別議員アリ商業會議所ノ種類ハ議員ノ選擧權ヲ有スル者之ヲ負擔シ國稅滯納處分ノ例ニ依リ强制シテ徵收スルコトヲ得

第八節　融通制度

分量ノ標準タル度量衡ノ制度、價額ノ標準タル貨幣ノ制度ヲ總稱シテ融通制度トス

第一　度量衡

其取引カ分量ニ依リテ定メラルル貨物ノ循環ヲ助クルカ爲メニ度量衡ノ標準ヲ一定スル必要アリ故ニ之カ爲メニ國家ハ度量衡制度ヲ設クルコトヲ要ス度量衡ニ關スル法規ノ目的ハ度量衡ノ方式ヲ確定シ之ヲ保證シテ商業ノ取引ヲ便利ニシ詐欺ヲ防制スルニ在リ斯ル目的ノ爲メニ國家ハ先ツ度量衡ノ名稱ト定義トヲ定メ次ニ度量衡器ノ正確ナルコトヲ公證セサルヘカラス明治二十四年三月法律第三號度量衡法ハ此等ノ點ニ付テ必要ノ規定ヲ設ク度量衡ノ名稱、定義ヲ定ムル法規ハ必スシモ法律ニ定ムル以外ノ度量衡ヲ用フルコトヲ禁止スルモノニ非ス然レトモ度量衡ノ畫一ヲ期シ詐欺ヲ防クノ目的ヲ有スル此等ノ規定アルトキハ國家ノ行爲ニハ法定ノ度量衡ヲ用ヒサルヘカラス又一般公ノ取引ニ於テ用フル度量衡ハ之カ法定ノ名稱ニ依ルトキハ法定ノ度量衡ヲ用ヒサルヘカラサルノ效果ヲ生ス度量衡器ノ正確合法ナルコトヲ公證スルカ爲メニ度量衡器ノ製作、修覆、販賣ハ許可(免許)ヲ要スルモノトシ其製作シ輸入シ販賣シ若クハ營業用ニ供スル度量衡器ハ官廳ノ檢定ヲ受ケシメテ其正確合法ナルモノニハ檢定ノ證印ヲ附スルモノト爲ス其他詐欺ヲ防クカ爲メ度量衡器ノ製作、修覆、販賣、使用ヲ爲ス者ニ對シテ强制シテ臨檢セシム許可ナクシテ度量衡器ヲ製作、販賣シ檢定ナキモノヲ販賣シ營業用ニ使用セル者ハ之ヲ處罰ス

第二　貨幣制度

經濟上ノ意味ニ於テ貨幣トハ交換ノ媒介、價額ノ標準タル貨物ナリ然レトモ法

律上ノ意味ニ於テ貨幣ト云フトキハ法ノ認メテ以テ辨濟ノ手段ト爲ス貨物ヲ謂フ即チ金錢上ノ債權者ハ唯其提供ヲ要求スルコトヲ得ヘク債務者ハ之ヲ提供スレハ其以上ノ義務アルコトナク又債權者ハ其受取ヲ拒ムコトヲ得サルモノヲ謂フ故ニ經濟上貨幣タル作用ヲ實際ニ爲シツツアル所ノ貨物ニテモ法ノ認メテ以テ辨濟方法ト爲スニ非サレハ法律上之ヲ貨幣ト爲スコトヲ得ス經濟上ノ貨幣ノ中ニテ法律上ノ貨幣ナルモノヲ法貨ト名ク一定ノ貨物カ法貨タル性質ヲ有スルニ至ルハ其物質ノ如何ニ拘ハラス又其製造者ノ如何ニ拘ハラス金屬ニ非サルモ私人ノ製造ニ係ルモ外國ノ貨幣ニテモ皆法貨タル性質ヲ有スルコトヲ得ルモノニシテ國家カ法ヲ以テ之ヲ認メテ法律上ノ辨濟方法ナリト爲ストキニハ即チ法貨ナリ故ニ國家カ法貨ニ對シテ施ス所ノ作用ハ之ヲ法貨ト認ムルコトニ存シ其之ヲ製造スルハ必スシモ國家ノ行動ヲ要セサルナリ尤モ明治三十年三月法律第十六號貨幣法ハ國民經濟上ノ他ノ理由ニ依リテ貨幣ノ製造及ヒ發行ハ政府專ラ之ヲ營ムヘキコトヲ規定セリ本法ニ依レハ貨幣ニハ金銀、白銅、青銅等ノ各種アリ但各種ノ貨幣ハ皆無制限ニ法貨トシテ通用スルコトナク銀貨幣ハ十圓ヲ、白銅、青銅貨幣ハ一圓ヲ限リテ法貨トシテ法律上ノ辨濟方法ニ供スルコトヲ得唯金貨幣ノミハ其額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス此ノ如ク無制限ニ法貨ナルモノヲ本位貨幣トシ他ヲ補助貨幣ト爲ス補助貨幣ハ此限度ヲ超ユルトキハ法律上貨幣ニ非ス貨幣ノ製造ハ國家之ヲ獨占スルモ私人ハ一定ノ品位ノ金地金ヲ政府ニ輸納シテ一定ノ手數料ヲ納メ金貨ノ製造ヲ求ムルコトヲ得此ノ如ク國家カ貨幣ノ製造ヲ獨占スルトキニハ貨幣ノ眞正ナルコトハ國家カ之ヲ公證スルモノナリ尤モ各箇ノ貨幣カ其品位、量目ニ就テ少シモ法定ノモノト異ナラサルコトハ造幣ノ技術上望ムヘカラサル所ナルヲ以テ法律ニ其品位、量目ニ於テ一定ノ度ノ差異ノアリ得ルコトヲ認メ此程度ノ差異ハ之カ爲メ貨幣ノ眞正ヲ害ハサルモノト爲ス之ヲ公差ト名ク又貨幣カ通用ノ爲メニ磨損スルハ免レサル所ナリ故ニ一定限度ノ磨損ハ貨幣タルニ害ナシトシテ法律ニ其程度ヲ規定ス之ヲ通用最輕量目ト名ク

貨幣ニハ硬貨ノ外ニ紙幣アリ紙幣モ亦法律カ之ヲ認メテ以テ法律上ノ辨濟方法ト爲ストキハ法貨ナリ紙幣ニ二種アリ其レ自身ニ於テ辨濟方法タル性質ヲ

有スルモノ即チ不換紙幣及ヒ本位貨幣ヲ代表シテ辨濟方法タル性質ヲ有スル兌換紙幣是ナリ我國ニ於テハ不換紙幣ハ之ヲ發行セス兌換紙幣ハ日本銀行ヲ以テ其發行ノ機關ト爲シ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク適用スル法貨ナリ兌換紙幣ハ其引換ヲ請求スル者アルトキハ金貨ヲ以テ兌換スルモノト爲ス兌換紙幣ノ法貨タルハ一定ノ形狀模樣ヲ有スル其紙面カ法貨ナルニ非スシテ金貨ト引換ヘラルル信用カ法貨タル性質ヲ有スルモノナリ日本銀行ハ引換ニ備フルカ爲メニ法定ノ準備ヲ爲ス準備ノ方法ニハ各國其執ル所ヲ異ニス我國法ノ執ル所ハ經濟學上制限屈伸法ト名クルモノニ屬ス

一定ノ貨物カ法貨タル性質ヲ有スルニ至ルハ國家カ之ヲ法貨ト謂ムルニ由ルカ如ク國家ハ亦法貨ヲシテ法貨タル性質ヲ失ハシムルコトヲ得尤モ之カ爲メニ通用ハ禁止セラルルニ非スシテ法貨タル性質ヲ失フノミナリ通用ヲ禁止スルハ別ニ其事ヲ明示セサルヘカラス貨幣通用ヲ禁止セルトキニハ一定ノ期限ヲ定メテ其引換ヲ行フヲ常トス

第九節　信用制度

信用トハ將來ノ反對提供ノ義務ニ對シテ或貨物ヲ使用處分スル權利ノ許與ナルコトニ存ス信用ノ效能ハ此方法ニ依リテ他人ニ屬スル資本ヲ企業ニ利用スルコトニ在リ信用取引ハ私法カ規律スル所ノ關係ナリ然レトモ現今ノ經濟生活ハ經濟學者カ名ケテ信用經濟ト曰フカ如ク生產交換皆信用ノ力ニ待タサルモノナク其保護ト助成トハ國民經濟ノ繁榮ヲ期圖スルカ爲メニ實ニ必要ナル事ニ屬スルヲ以テ各種ノ信用制度ニ關シテ亦行政ノ作用アリ

第一　利息ノ制限

信用取引ハ私法上ノ關係ニシテ如何ナル條件ヲ以テ之ヲ爲スカハ又一ニ私人ノ自由ニ屬ス然レトモ各種ノ經濟生活ノ關係ニ於ケルカ如ク私人ハ其信用取引ノ自由ヲ公益ノ理由ニ依リテ公法上制限セラレサルヘカラス公法ハ信用取引カ如何ナル條件ヲ以テ爲サルルカヲ私人ノ自由ニ放任スルトキハ其當事者ノ一方ヲシテ不當ナル財產上ノ損害ヲ受ケシムルコトアリ而モ私人ハ自ラ之

ヲ保護スルコト能ハサル經濟上劣勢ノ地位ニ在ル者アルヲ以テ之ヲ保護シテ以テ信用取引ノ安固ヲ保持スル警察的ノ規定ヲ設ク其最モ著シキハ高利ニ對スル保護ナリ不當ニ高キ利子ヲ以テ金錢ヲ貸付クルハ或ハ刑法ノ罰スル所ナリ明治十年九月第六十六號布告利息制限法ハ契約ヲ以テ定ムル金錢貸借ノ利息ヲ制限シテ一定額以上ノ利息ヲ得ル契約ハ之ヲ無效ト爲シ以テ不當ナル高利ニ對スル保護ノ目的ヲ達セントセリ又明治二十八年三月法律第十四號質屋取締法ハ質屋ノ領收スルコトヲ得ル利息ヲ制限ス尙ホ同法ハ質契約ニ付テ此他二三ノ制限ヲ爲セリ

第二　銀行

銀行ハ信用ヲ媒介スル機關ナリ國家ハ信用ヲ保護シ又其發生ヲ助長スルカ爲メニ或ハ自ラ銀行ヲ設立シ或ハ一般私人ノ設立スル銀行ニ對シテ一定ノ取締ノ規定ヲ設ク銀行ニハ農業ニ對スル資本ノ融通ヲ助クル目的ノ爲メニ設立スルモノト商工業ニ對スル資本ノ融通ヲ助クル目的ノ爲メニ設立スルモノトアリ

(イ)　農工業信用

農工業ノ爲メニ用ヒラルル信用ハ物的信用多クシテ所謂不動ノ性質ヲ有ス不動トハ投スル所ノ資本固定シテ還付スル期限ノ長キコトヲ謂フ我國ニ於テ農工業ノ爲メニ設クル信用助成ノ機關ヲ勸業銀行、農工銀行、興業銀行及ヒ北海道拓殖銀行ト爲ス勸業銀行及ヒ農工銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲メニ資本ヲ貸付クルヲ以テ目的ト爲シ其主タル營業ハ不動產ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スニ在リ而シテ其資本ヲ得ンカ爲メニ勸業債券及ヒ農工債券ヲ發行スルコトヲ得ルモノト爲ス興業銀行ハ所謂動產銀行ニシテ主トシテ工業ノ發達ヲ助成スルノ目的ヲ有シ國債證券、地方債證券、社債券及ヒ株券ヲ質トシテ貸付ヲ爲スヲ主タル營業トシ債權ヲ發行スルコトヲ得ルハ勸業銀行、農工銀行ト同シ北海道ノ拓殖事業ニ資本ニ供給スル目的ヲ以テ特設セラレタルモノヲ北海道拓殖銀行ト爲ス其營業ハ主トシテ此目的ノ爲メニ不動產ヲ抵當トシ北海道ノ拓殖ヲ目的トスル株式會社ノ株券、債券ヲ質トシテ貸付ヲ爲スニ在リ又債券ヲ發行スルコトヲ得

（ロ）商業信用

商業ノ信用ヲ媒介スル機關ヲ商業銀行トス一般普通ノ銀行ハ商業信用ノ機關ナリ商劵ノ割引、爲替事業、諸預及ヒ貸付ノ營業ヲ爲スモノナリ其營業ハ商法ノ規定ニ準據ス但明治二十三年八月法律第七十二號銀行條例ヲ以テ特ニ之カ取締ノ規定ヲ爲セリ即チ其設立ハ大藏大臣ノ認可ヲ要シ其營業ハ大藏大臣ノ監督スル所タラシム銀行ニシテ復利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲メニ預金ノ事業ヲ營ムモノヲ預蓄銀行トス預蓄銀行ニ對シテハ明治二十三年八月法律第七十三號預蓄銀行條例ヲ以テ一般銀行ヨリモ嚴密ナル取締ノ規定ヲ設ク横濱正金銀行ハ主トシテ外國ノ爲替及ヒ荷爲替ヲ取扱フ等外國貿易ハ信用機關トシテ特設スル銀行ナリ

第十節　交通運輸

交通運輸トハ人、貨物及ヒ音信ノ場所ノ變更ヲ目的トスル活動ヲ謂フ或ハ之ヲ單ニ交通ト稱ス交通ト云フハ世俗一般ノ用法ニ從ヘハ或ハ貨物ノ場所ヲ變更スルハ之ヲ含マサルヤニ聞エルヲ以テ予ハ玆ニ之ヲ交通運輸ト稱シテ其全體ヲ包括セシメント欲スルナリ即チ道路、河川、江海、運河、鐵道ニ依ル交通運輸、郵便、電信、電話等皆之ニ屬ス

交通運輸ハ國民經濟交通ノ用具ニシテ私人間ニ於ケル經濟的需要ヲ充タスコトヲ內容トス故ニ其法律關係ハ私法上ノ關係ナリ而シテ私人カ交通運輸ニ關スル業ヲ營ムハ一般營業ト同シク營業ニ關スル法規ノ規律スル所ナリ然レトモ交通運輸ハ啻ニ私人ノ經濟的需要ヲ充タスニ止マラス實ニ國民ノ發達、文明ノ進步ノ要件ナリ軍備、財政其他國家百般ノ政務カ一トシテ交通運輸ノ力ヲ藉ラサルモノナク國權ノ維持ト伸張トハ大ニ交通運輸ノ發達如何ニ關ハレリト謂フヘキナリ又一國文明ノ進步ハ交通運輸カ大ニ開クルニ非サレハ之ヲ望ムコトヲ得ス人智ノ開發ハ一ニ交通運輸ノ利便ニ待ツ左レハ交通運輸ハ人ノ國家的、精神的並ニ社會的生活ニ重大ナル關係ヲ有スルモノニシテ隨テ國家ハ交通運輸ノ施設ヲ全ク私人ノ爲ス所ニ放任スルコトヲ得ス故ニ或ハ自ラ之ヲ築造シ經營シ又私人ノ築造經營スル運輸交通ヲ保護シ奬勵セサルヘカラス

國家カ自ラ交通運輸ノ機關ヲ具ヘ又之ヲ經營スルコトヲ要シ又此ノ如クスルヲ政策ノ宜キヲ得タルモノトスル場合ハ私人ノ力ハ能ク之ヲ具フルコトヲ得サル場合又之ヲ具フルコトヲ得ルモ適當ノ時期ニ於テスルコトヲ得サル場合若クハ私人カ之ヲ經營スルハ公共ノ利益ニ反スル結果ヲ惹起スル場合ナリ此ノ如キ場合ニハ其交通運輸ノ事業カ固定資本ヲ要スルコト多キトキハ其多キニ隨ヒテ其著シキヲ見ルモノニテ發達シタル交通運輸ノ事業ハ固定資本ヲ要スルコト極メテ多キヲ以テ私人ハ之ヲ常ニ又ハ適當ノ時期ニ供スルコトヲ得ス又之ヲ供スルコトヲ得ルモ大ナル固定資本ヲ要スル結果トシテ經濟上獨占ノ傾向ヲ有シ一般國民經濟ノ爲メニ不當ナル弊害ヲ惹起シ又幸ニシテ競爭行ハルルトキニハ必要ナキニ大ナル資本ヲ無益ニ消費スルノ結果ヲ來シ又或ハ交通運輸ノ安全ヲ換フニ至ルコトアリ故ニ交通運輸ノ發達スルト共ニ國家カ之ヲ經營スル必要ハ益〻大ナルニ至ル其他國防其他ノ政略上ノ目的ノ爲メ國家カ交通運輸ノ事業ヲ自ラ經營スルコトヲ要スルハ特別ノ事情ニ基クモノナレトモ近來列國競爭ノ盛ナルト同時ニ其必要ヲ增加スルニ至レリ

此ノ如キ特別ノ事情ナキ場合ニ在リテハ固定資本ヲ要スル程度少キニ隨ヒテ國家カ自ラ之ヲ經營スル必要理由モ亦減少ス左レトモ之ヲ私人ノ經營ニ任スル場合ニ在リテモ國家ハ之ヲ保護シ又監督セサルヘカラス其保護及ヒ監督ノ方法ハ或ハ公共ノ利益ノ爲メニ交通運輸ノ線路其方法等ヲ法律ヲ以テ豫メ一定シテ私人ヲシテ之ニ依ラシムルコトアリ或ハ交通運輸ノ賃銀ヲ法律ヲ以テ一定シ又ハ其最高最低限ヲ定ムルコトモアリ或ハ企業家ニ公用徵收ノ如キ利益ヲ與フルカ如キ方法ニ依リテ法律上企業ノ經營ヲ補助スルコトモアリ或ハ資本ノ幾分ヲ與フルコトアリ或ハ公有ノ土地ノ上ニ私人ノ使用權ヲ設定スルコトアリ進ミテ國家カ自ラ交通運輸ノ事業ヲ經營スル場合ニハ其方法モ亦種種アリ或ハ全然私人ノ爲ス所ト同シク營利的ニ之ヲ經營スルコトアリ或ハ租稅其他一般ノ收入ヲ以テ費用ヲ支辨シテ私人ヲシテ賃銀モ手數料モ之ヲ支拂ハシメサルコトアリ又或ハ公法上ノ手數料ヲ徵收スルコトアリ其何レノ方法ヲ執ルカハ主トシテ交通運輸ノ種類ニ依リ又其他ノ事情ニ依リテ定マルモノトス

十九世紀ニ至ルマテハ交通運輸ノ機關ハ唯道路ト水路トノ二種アリシノミ國家ノ交通運輸ノ行政モ亦唯此二種ノ交通機關ニ付テ存セシナリ而シテ道路ノ築造ハ古クヨリ國家又ハ公共團體ノ事務ニ屬シ天然水路ノ保全及ヒ運河ノ築造モ亦國家カ之ニ干涉シテ私人カ此等ノ經營ヲ爲スコトハ必スシモ禁止セラレタルニハ非サルモ實際私人ハ之ヲ營ムコトナカリシナリ然レトモ道路ヲ使用シ人、牛馬及ヒ車ヲ以テ又水路ヲ使用シテ舟筏ヲ以テ人、貨物及ヒ音信ヲ送達スル事業ハ全ク私人ノ營ム所ナリシナリ故ニ此時代ニ於テハ國家ノ爲ス所ハ唯交通運輸機關ノ具備ニ在リテ進ミテ自ラ之ヲ經營スルハ私人ニ屬セリ後ニ郵便事業發達スルニ及ヒ國家ハ自ラ其事業ヲ經營スルニ至レリ十九世紀ニ至リ鐵道ト電信トノ二大交通機關起リ交通運輸ノ事業ハ著シク發達セリ鐵道ノ始メテ起ルヤ或ハ其築造ト經營トハ別人ニ依リテ之ヲ行ハントセシコトアルモ種種ノ關係ヨリ築造ト經營トハ同一ノ人ニ依リテ普通行ハルルニ至レリ或ハ之ヲ私人ノ經營ニ委チ或ハ之ヲ國家ノ事務トシテ行フ電信ハ其築造モ經營モ同一ノ人ニ屬シ國家カ之ヲ行フヲ通常トス以下右各種ノ交通運輸ノ事業ニ關スル行政ノ作用ヲ述フヘシ

第一　道路

道路トハ人、動物及ヒ車ニ依ル交通運輸ニ供用セラルル二ノ地點間ノ土地ナリ道路ニハ公道ト私道トノ區別アリ公道トハ一般公衆ノ使用ニ供スル道路ヲ謂ヒ私道トハ特ニ私法上ノ使用權ヲ有スル者ニ限リ使用スルコトヲ得ルモノヲ謂フ私道ハ私ノ財產權ノ目的ニシテ私法ノ干涉スル所ナリ行政法ニ於テ論スルモノハ公道ニ屬ス公道ハ行政法上所謂公用物ノ一種ニシテ其私道ト區別スル所以ハ其敷設地ノ所有權カ國家又ハ公共團體ニ屬スルコトニハ存セスシテ官有地ノ上ニモ私道アリ私有地ノ上ニモ公道アルコトヲ妨ケス其公道タル性質ハ實ニ其一般公衆ノ使用ニ直接ニ供セラルル點ニ存ス故ニ其所有權ハ縱令私人ニ屬スルモ國家又ハ公共團體カ私人ノ其上ニ有スル私ノ所有權ヲ制限シテ公衆ヲシテ直接ニ之ヲ使用スルコトヲ得セシムレハ公道タルニ妨ケサルナリ公道タル公法上ノ關係ハ其敷地ノ所有ナル私法上ノ關係トハ之ヲ區別スルコトヲ得ヘキモノニシテ我地所名稱區別明治七年十一月第百二十號布告)モ亦

民有地ノ目ノ下ニ公衆ノ用ニ供スル道路即チ公道ヲ掲ク一定ノ私有地カ此ノ如キ公道タル性質ヲ有スルニ至ルハ之ヲ區畫シテ公道ニ編入スル行政處分ニ依ル所謂公用徵收ノ方法ニ依リテ其所有權ヲモ國家又ハ公共團體ニ移スコトアルモ必スシモ此方法ニ依ルコトヲ要セス私ノ所有權ヲ移スコトナクシテ其上ニ公衆ノ使用ニ供スル負擔ヲ設定スルヲ以テ足レリト爲ス此ノ如キ「處分」ニ依リテ其土地ノ上ノ所有權ハ其公用ニ供セラルル限度ニ於テ制限セラレ其限度ニ於テ所有權ノ作用停止セラル即チ國家又ハ公共團體ハ公用ヲ供スルニ必要ナル限度ニ於テ其土地ノ占有、使用ノ權ヲ有ス學者或ハ之ヲ公法上ノ所有權ト曰フ私法上ノ所有權ト相關セサルコトヲ明カニスル爲メニハ當レリト謂フヘシ公道タルコトヲ廢止スルモ亦行政處分ニ依ル而シテ之ニ由リテ私所有權ハ其活動ヲ完全ニ復奮スルニ至ル

道路ハ分チテ主道路、支道路及ヒ地方道路ノ三ト爲ス主道路トハ一國ノ交通ノ要路即チ經濟上、政治上重要ナル土地ノ間ヲ連絡スル道路ヲ謂ヒ其築造、保全ノ經營ハ國家カ之ヲ管掌スルヲ當レリト爲ス支道路ハ主道路ヨリ岐レテ之ト他ノ地點トヲ連絡スルモノニシテ狀況ニ依リテ國家カ之ヲ經營スルヲ可トスルモ通常ハ國家カ之ヲ築造シテ其保全監督ハ之ヲ地方團體ノ負擔トスルコト行ハル地方道路トハ一地方區畫內ノ交通、連絡ニ供スルモノニシテ其築造、保全ハ地方團體ノ事務タル性質ヲ有ス交通ノ區域カ地方團體ノ區域ト相一致セス又ハ特別ノ事情アルトキニハ道路行政ノ爲メニ特別ノ地方團體ノ組合ヲ設立スルモ亦適宜ノ處分ニ屬ス我國ニ於テハ道路ノ負擔ハ總テ府縣以下ノ地方團體ニ屬シテ而モ此等ノ團體ノ間ニ於ケル事情負擔ノ分配ニ付テ一定ノ規則ナシ明治九年六月第六十號達ハ道路ヲ分チテ國道、縣路、里道ノ三種ト爲スモ是レ事務負擔ヲ別ツ爲メニ非スシテ其道幅其他ノ構造ニ關スル區別ヲ爲スノミナリ『公道ハ公衆ノ使用ニ供スルコトヲ其性質トスルコトハ前ニ述ヘタルカ如シ私人ハ公道ヲ人、貨物及ヒ音信ノ送達ニ使用スル權利ヲ有ス公道ヲ使用シテ營業トシテ他人ノ爲メニ此等ノ事業ヲ爲スモ亦私人ニ屬スル公法上ノ權利ナリ此權利ハ公益ノ爲メニスル公法上ノ制限ニ從ヒテ行使セラルルコトヲ要ス此ノ如キ法規ハ主トシテ道路ヲ保全シ道路ノ安寧、靜謐及ヒ清潔ヲ保持スルノ目的

ヲ有シ所謂道路警察ト云フモノ是ナリ道路警察ニ付テハ既ニ述ヘタリ此等ノ警察上ノ制限ノ外ニ時トシテハ道路ノ使用ニ對シテ手數料ヲ徵收スルコトアリ此ノ如キ手數料ヲ徵收スルハ道路ノ一部タル橋梁ニ於テ殊ニ屢〻見ル所ナリ中世ニ於テハ道錢及ヒ橋錢ハ所謂通過稅ノ一種ニ屬シ國庫ノ收入ヲ得ル目的ノ爲メニ徵收セラレタルモノナリ此ノ如キ通過稅ハ今日ニ於テハ之ヲ徵收セサルヲ常ト爲ス今日ニ在リテ徵收スル道錢、橋錢ハ其築造及ヒ維持ノ費用ヲ之ヲ使用スル者ヲシテ負擔セシムルノ主義ヲ有シ而モ今日ハ國家カ自ラ之ヲ徵收スル場合殆ト之ナク例外トシテ公共團體カ之ヲ徵收スルコトアルノミニシテ之ヲ徵收スルハ主トシテ私人カ私費ヲ投シテ公益ノ爲メニ築造シタル道路、橋梁ニ付テ存スルナリ明治四年十二月ノ布告ヲ以テ自費ヲ以テ道路橋梁ヲ築造シタル者アルトキハ一定ノ年限ヲ限リテ一定ノ手數料ヲ徵收スルコトヲ得セシムルヲ得ル旨ヲ規定セリ此場合ニ於テ私人ノ徵收スル手數料ハ私法上ノ契約ニ基クモノニハ非ス此ノ如キ道路モ亦公道タル性質ヲ有シ其使用ニ對シテ支拂フ所ハ公法上ノ手數料ナリ而シテ私人ハ之ヲ取立ツル權利ノ行

續ニ依リ國籍ヲ回復スル必要ヲ免除シ引續キ舊國籍ヲ享有シタルモノト看做ス便宜上ノ規定タルニ過キス又斯ル退去者ノ財產保護ニ關シテハ古來第十七世紀ノ終ニ至ルマテハ退去者ニ自ラ其動產ヲ携帶スルコトヲ許シタルノミニシテ其餘ノ財產ハ皆之ヲ沒收スルヲ以テ例トセシモ第十八世紀ノ後半以來ハ退去者ハ其不動產ヲ自由ニ賣却シテ退去スルコトヲ認ムルニ至レリ更ニ第十九世紀以來外國人ト雖モ不動產ヲ所有スルコトヲ得ルニ至リタルカ故ニ退去者ハ退去スルモ仍ホ其不動產ヲ所有スルコトヲ認メラルルニ至レリ但千八百七十八年及ヒ千八百七十九年ノ露土條約及ヒ明治二十七年ノ日清條約ニハ退去者ハ退去前ニ其不動產ヲ賣却スルコトヲ要シタリ故ニ賣却スルコトヲ得サリシ不動產ハ我國庫ニ歸シタルモノトス

次ニ如何ナル住民ハ領地ノ割讓ニ因リテ國籍ヲ變更スヘキヤヲ說明センニ領地ノ割讓ハ前ニモ述ヘタルカ如ク割讓國ノ主權讓渡ノ結果トシテ國籍ヲ變更スヘキモノナルカ故ニ隨テ割讓國ニ屬セサル人民ハ縱令割讓地ニ住所ヲ有スル場合ニ於テモ其國籍ヲ變更セサルコトハ明カナリ是レ猶ホ契約ハ第三者ニ

效力ヲ及ホササルカ如ク領地割讓ノ條約モ亦第三國及ヒ第三國ノ臣民ニ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス此點ニ付テハ疑ノ存セサル所ナレトモ割讓國ニ屬スル臣民ニ付テハ疑義屢發生スルモノナリ元來割讓地ニ屬スル人民ニシテ割讓地ト關係ヲ有スル者ハ凡ソ四種類ニ區別スルコトヲ得ヘシ其一ハ割讓地ニ住所ヲ有スル者ニシテ本籍ヲ有セサル者其二ハ割讓地ニ本籍ヲ有スレトモ現ニ住所ヲ有セサル者其三ハ割讓地ニ本籍ヲ有シ且現ニ住所ヲ有スル者其四ハ本籍又ハ住所ヲ有セサルモ單ニ居所ヲ有スル者是ナリ此四種類ノ中ニテ單ニ居所ヲ有スル割讓國ノ臣民ニ付テハ領地ノ割讓ハ何等ノ變更ヲ及ホササルヲ以テ通例トス唯或ハ讓受國ノ政治上ノ都合ニ依リ斯ル人民ニ一定ノ期間又ハ永久居所ヲ有スルコトヲ許ササルコトアルノミ換言スレハ退去ヲ命スルコトアルノミ然レトモ他ノ三種ノ臣民ニ付テハ國籍ヲ變更スヘキモノナルヤ否ヤノ問題ヲ生ス今單ニ條約ノ明文ニ割讓地ノ住民トアル場合ニ以上ノ三種類ノ人民ヲ悉ク包含スルヤ否ヤト云フニ學說上ニ種種ノ異論アリテ之ヲ五箇ニ分ツコトヲ得今其大要ヲ左ニ略述スヘシ

第一　割讓國ノ國體ニ依リテ或ハ住所主義或ハ本籍主義

即チ若シ割讓國カ統一的ノ國體ニシテ地方ニ依リテ法律ヲ異ニセサル場合ニ於テハ所謂割讓地ノ住民ナル語ハ現ニ割讓地ニ住所ヲ有スル者ノミヲ謂フモノニシテ苟モ住所ヲ有セサル者ハ縱令其地ニ本籍ヲ有スル場合ニ於テモ仍ホ國籍ヲ變更スルコトナシトス之ニ反シテ若シ讓渡國カ聯邦國ナルカ又ハ地方ニ依リテ法律ヲ異ニスル國例ヘハ北米合衆國瑞西ノ如ク各地方ニ依リ特殊ノ法律ヲ有スル國ナルトキハ住所ノ如何ニ拘ハラス割讓地ニ本籍ヲ有スル者ノミカ國籍ヲ變更スヘキモノナリトスル主義ナリ

第二　住所主義

領地ノ割讓ニ因リテ國籍ヲ變更スヘキ住民トハ割讓ノ當時現ニ割讓地ニ住所ヲ有スル臣民ノミナリトスル說ニシテ此說ノ根據トスル所ハ領地割讓ノ目的上讓受國ハ唯其新領地ニ住所ヲ有スル者ヲ以テ足レリトシ割讓地ニ本籍ヲ有スルモ現ニ他ノ地方ニ住所ヲ有スル者ハ國籍ヲ變更セシムヘキ理由ナシ之ニ反シテ現ニ他ノ地方ニ本籍ヲ有スル者ナリト雖モ苟モ現在ノ住所カ割讓地ニ

在ル以上ハ國籍ヲ變更スヘキモノトセサルヘカラストスルナリ領地主權ノ目的ヨリ謂フトキハ此主義カ最モ正當ナルモノニシテ且割讓地ノ住民ナル語ト相照應スルモノナリ

第三　本籍主義

此主義ハ住所ノ割讓地ニ在ルト又其他ノ地方ニ在ルトヲ問ハスシテ苟モ割讓地ニ本籍ヲ有スル者即チ多クノ場合ニ於テハ其地ニ出生シタル者ハ皆國籍ヲ變更スヘキモノトスルナリ此說ノ根據トスル所ハ領地割讓ノ結果トシテ國籍ヲ變更スヘキ者ハ其領地ト最モ密著ナル關係ヲ有スル者ニ限ラサルヘカラストシ斯ル密著ナル關係ヲ有スル者ハ住所ヲ有スルモノニ非スシテ其地ニ出生シタル者即チ本籍ヲ有スル者ナリト云フニ在リ然レトモ住民ナル語ハ住所及ヒ居所ノ觀念ト相竢チテ離ルヘカラサルモノニシテ寧ロ本籍ノ如何ニ拘ハラサルモノナリ隨テ住民ト明言セルニモ拘ハラス住所ノ如何ヲ問ハスシテ本籍ヲ有スル者ノミト解釋スルコトハ穩當ヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス

第四　住所及ヒ本籍主義

此主義ハ割讓地ニ本籍ヲ有シ且現ニ住所ヲ有スル者ノミカ國籍ヲ變更スヘシトスル說ニシテ領地ノ割讓ニ因リテ國籍ヲ變更スヘキ運命ニ遭遇スル者ヲシテ成ルヘク少タセントスル主義ナリ是レ佛國ノ學者カ獨逸ニ割讓シタル「エルザス」「ロートリンゲン」二州ニ於ケル住民ノ國籍變更ヲ減少セシメンカ爲メニ盛ニ主張セシ所ナリ(例ヘハ佛國「ウエース」「ルノー」等ノ如シ)然レトモ此說ハ穩當ナラス

第五　住所又ハ本籍主義

此主義ハ割讓地ニ住所ト本籍トヲ併有スル者ハ勿論本籍ヲ有セサルモ現ニ住所ヲ有スルカ又住所ヲ有セサルモ其地ニ本籍ヲ有スル者ハ悉ク國籍ヲ變更スヘキモノトスルナリ即チ第四ノ主義ノ正反對ニシテ領地ノ割讓ニ因リテ國籍ヲ變更スヘキ者ヲ成ルヘク多クセントスル主義ナリ從來ノ實例ニ於テモ亦此主義ヲ認ムルモノ多ク現ニ普佛領地割讓條約ノ結果ニ依リ「エルザス」「ロートリンゲン」二州ノ人民ニ對シテ獨逸政府ノ堅ク主張シタル所ナリトス

以上述ヘタル如ク領地割讓ノ場合ニ於ケル國籍變更ハ五主義アリト雖モ現今

一般ニ各國ノ學者間ニ唱道セラルルハ多クハ第二或ハ第五ノ主義ニシテ其第二ヲ採ルカ第五ヲ採ルカハ割讓條約締結當時ノ狀態又ハ國情ニ依リ決スヘキモノトス

第二章　國籍ノ喪失

古代ニ於テハ一國ノ臣民ハ或ハ國家ヨリ國籍ヲ剝奪セラレ國外ニ追放セラルルコトアリシモ自己ノ任意ニ因リテ國籍ヲ脫スルコトハ認メラレサリキ蓋テ一タヒ臣民タル者ハ永久臣民タリトノ格言發生シ我國ニ於テモ西洋諸國ニ於テモ極メテ近來マテハ箇人カ自由ニ國籍ヲ喪失スルコトヲ許ササリシナリ然ルニ近世ニ至リ箇人カ自由ニ國外ニ移住スルコトヲ認メラルルニ至リタルト同時ニ內外國ノ交通ハ益〻發達シ各〻開國主義ヲ採リ外國ノ移住民ヲ國內ニ來住セシムルコトカ一般ニ認メラルルニ至リタルノミナラス或ハ北米合衆國或ハ南米諸國ノ如ク外國ノ移住民ニ依リテ國家ノ富榮ヲ計リ國民ノ增加スルコトヲ希望スル諸國ハ其本國ニ於テ國籍ヲ喪失スルト否トニ拘ハラス移住民ニ自國ノ國籍ヲ付與スルニ至リタル以來近世諸國ニ於テハ漸ク箇人カ國ヲ去リ籍ヲ脫スルノ自由ヲ一般ニ認ムルニ至レリ現今尙ホ此自由ヲ認メサル國ハ露國ノミナリ

我國籍法ノ規定ニ依レハ我臣民カ國籍ヲ喪失スル原因ハ凡ソ四箇アリ今左ニ國籍喪失ノ原因、制限及ヒ效果ノ三節ニ別チテ之ヲ略說セントス

第一節　國籍喪失ノ原因

第一　婚姻

國籍法第十八條ニ依レハ日本ノ女カ外國人ト婚姻シ外國人ノ妻ト爲リタルトキハ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキモノトセリ此國籍喪失ノ原因ハ明治六年布告第百三號ニ依リ始メテ認メラレタルモノニシテ現今文明諸國ニ於テ一般ニ認メラルル喪失原因ナリトス斯ル國籍喪失ノ原因ハ夫婦ヲシテ國籍ヲ同シウセシムルノ必要ヨリ出テタルモノナレトモ我國籍法第十八條ノ如ク如何ナル場合ニ於テモ絕對的ニ國籍ヲ喪失スヘキモノトスルハ極メテ少キ立法例ナリ我輩

ハ此規定ニ對シテ聊カ缺點ヲ鳴ラサヽルヲ得ス他ノ諸國ニ於テハ皆妻カ其夫ノ國籍即チ外國ノ國籍ヲ取得スヘキコトヲ條件トシテ從來ノ國籍ヲ失フヘキモノトセリ我國籍法ニ於テモ國籍ノ喪失ハ外國ノ國籍ヲ取得スルコトヲ條件トスルニモ拘ハラス獨リ此場合ニ限リテ此ノ如キ制限ヲ設クルコトヲ爲サヽリシハ日本ノ女カ無籍外國人ニ嫁スヘキ場合アルコトヲ忘レタルモノニシテ甚タ其當ヲ失シタルモノト謂ハサルヘカラス

第二　離婚又ハ離緣

外國人タル者カ入夫婚姻又ハ養子緣組ニ因リテ我國籍ヲ取得スルコトハ既ニ國籍ノ取得ニ付テ述ヘタル所ナリ今此ノ如キ者カ離婚又ハ離緣ニ因リテ日本ノ家ヲ出ツル場合ニ於テハ引續キ日本人ト看做スヘキ必要ナキカ故ニ斯ル者ハ其國籍取得ノ原因タリシ婚姻關係又ハ養子關係ノ消滅ト共ニ我國籍ヲ喪失スルモノトセルナリ然レトモ若シ此等ノ外國人カ再ヒ其舊國籍ヲ回復シ得サル場合ニ於テハ遂ニ無籍人ト爲ルニ至ルカ故ニ斯ル弊害ヲ避ケンカ爲メ我國籍法第十九條ニ於テハ外國ノ國籍ヲ取得スヘキトキニ限リ我國籍ヲ喪失スヘ

權利ヲ行フト主張シ後說ヲ前提トシテ破產財團ト破產者トノ關係ヲ說明スレハ破產ノ宣告ニ因リテ破產者ハ破產財團ニ屬スル財產ヲ喪失スルモノニ非ス又破產債權者ハ破產財團ニ付キ質權又ハ差押權ヲ有スルモノニ非ス唯破產財團ハ總破產債權者ニ成ルヘク完全ナル辨濟ヲ受ケシムルノ目的ニ於テ成立スルヲ以テ破產者ハ爾後破產財團ニ損害ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得サルノミ故ニ破產ノ宣告ニ因リテ破產者ハ行爲無能力者ト爲ルコトナク當然破產財團ニ屬スル財產ヲ管理シ且之ヲ處分スルノ權能ヲ喪失シ管財人カ該管理及ヒ處分ヲ爲ス(商法第九八五條、第一〇一二條、獨逸破產法第六條)隨テ破產宣告後ニ破產者ノ爲シタル權利行爲ハ破產者ノ意思ノ善惡ニ拘ハラス破產債權者ノ全員又ハ其一員ノ利益ニ反スル效力ヲ破產財團ニ及ホスコトヲ得ス(獨逸破產法第七條)是ヲ以テ破產財團ニ屬スル財產ニ依レル辨濟斯ル財產ノ讓渡又ハ質入斯ル財產上ニ爲シタル地上權ノ設定及ヒ斯ル財產ノ爲メニ存スル地上權ノ消滅ノ如キ直接ニ破產財團ニ關スル權利行爲ハ破產債權者ニ對シテ無效ニシテ手形ノ振出若クハ其引受等ノ如キ破產者カ其一身上ニ債務ヲ負ヒ直接ニ破

産財團ニ關係ナキ權利行爲ハ破産財團ニ屬セサル破産者ノ財産上ニ行ハレ破産財團ニ屬スル破産ニ行ハルルコトナシ隨テ破産債權者ニ對シ效力ヲ有スルヤ否ヤノ問題ヲ惹起スコトナシト主張セサルヘカラス予輩ハ前述ノ如ク破産債權者ハ團體關係ニ於テ破産財團ニ付キ差押權ヲ有スト主張セルヲ以テ斯ル權利ヲ前提トシテ破産財團ト破産債權者トノ關係ヲ說明セサルヲ得サルコト固ヨリ當然ナリ而シテ債務者ハ質權者ノ權利ヲ害スル行爲ヲ爲スコトヲ得サルト同シク破産者亦破産債權者團體ノ差押權ヲ害スルコトヲ得ス故ニ破産ノ宣告後破産者カ破産財團ニ付キ爲シタル權利行爲ハ其行爲ノ當事者間ニ於テハ有效ナリト雖モ破産債權者團體ニ對シテハ無效ナリ(商法第九八五條第二項、破産法案第八六條)又破産者カ破産財團ニ屬スル財産ノ管理及ヒ處分ヲ爲ス權能ヲ喪失シ管財人カ差押權ノ目的ヲ逸スルカ爲メニ即チ破産債權者ニ成ルヘク完全ナル辨濟ヲ得セシムルカ爲メニ破産財團ノ管理及ヒ處分ヲ爲ス隨テ管財人ハ質權者ト同シク占有者ニ對シ破産財團ニ屬スル物件ノ引渡ヲ求メ又債務者ニ對シ破産財團ニ屬スル債權ヲ取立テ各破産債權ヲ完濟シタル殘餘ノ破産財團ヲ破産者ニ返還シ且破産債權者ニ滿足ヲ得セシムルニ必要ナル處分行爲(破産財團ニ屬スル財産ノ贈與及ヒ債權ノ免除ノ如キ行爲ハ管財人ト同シク爲スコトヲ得サル行爲ナリ)ヲ爲ス

(三) 破産財團ノ增減　破産財團ヲ增加スル原因タル事實ハ破産宣告後ニ於ケル財産ノ取得、否認權ノ行使(破産法案第八六條以下)ニシテ破産財團ヲ減少スル原因タル事實ハ取戻權、別除權及ヒ財團債權ノ行使ナリ左ニ之ヲ分說スヘシ

(A) 破産宣告後ノ財産ノ取得　我現行破産法及ヒ破産法案ニ於テハ前述シタルカ如ク羅馬主義ヲ是認シタルヲ以テ破産宣告以後ニ於ケル破産者ノ財産ノ取得ハ破産財團增加ノ原因ト爲ル故ニ破産者カ無主物ノ占有、相續、遺贈等ノ如キ無償行爲、雇傭請負、商業等ノ如キ有償行爲ニ依リテ取得シタル財産(純益)ハ破産財團ニ屬ス隨テ佛蘭西商法ニ於ケルカ如ク重複破産ハ之ヲ是認セサルモノト謂ハサルヲ得ス獨逸破産法ニ於テハ前述ノ如ク破産財團ヲ破産宣告ノ當時ニ於テ破産者ノ有セル財産ニ限定シタルヲ以テ破産宣告以後ニ於ケル破産者ノ財産取得ハ破産財團ニ增加ノ原因ト爲ラス故ニ破産財團ハ破産債權者ノ平

等滿足ニ供シ破産宣告以後ニ於テ破産者ノ取得シタル財産ハ破産宣告以後ニ於テ破産者ニ對シ財産權ヲ取得シタル債權者ノ滿足ニ供スルモノナリ隨テ破産者カ其破産宣告以後ニ於テ財産權ヲ取得シタル債權者ニ對シ其債務ヲ履行スルコト能ハサル場合ニ於テハ破産裁判所ハ該債權者ノ申立ニ因リ第一ノ破産手續ノ終結前ニ於テ更ニ第二ノ破産ヲ宣告ス而シテ第一ノ破産宣告ノ當時破産債權者タリシ者ハ第二ノ破産宣告ヲ申立ツルノ權利ナシ何トナレハ該債權者ハ第一ノ破産手續繼續中破産財團ニ屬セサル財産上ニ執行ヲ爲スコト能ハサレハナリ又第二ノ破産宣告ヲ爲シタル場合ニ於テハ唯第一ノ破産手續開始後破産者ノ債權者ト爲リタル者カ破産手續ニ參加スルコトヲ得ルニ止マリ第一ノ破産宣告ノ當時債權者タリシ者ハ破産手續ニ參加スルコトヲ得ス何トナレハ第二ノ破産ニ於ケル破産財團ハ第一ノ破産ニ於ケル破産財團ニ非サレハナリ然レトモ第一ノ破産手續終結後ニ於テハ該債權者カ其未濟額ニ付キ第二ノ破産ニ於テ破産債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ妨ケス蓋シ破産手續終結後ニ於テハ各破産債權者ハ破産者ノ財産上ニ執行ヲ爲スコトヲ得ヘキヲ以テナリ

(B) 否認權ノ行使　破産者カ其宣告ヲ受クル以前ニ於テ爲シタル行爲ニシテ破産債權者ノ利益ヲ害スヘキモノハ我現行破産法ニ於テハ佛蘭西商法ニ於ケルカ如ク破産宣告ノ效力トシテ破産財團ニ對シテ之ヲ無效トシ(商法第九九〇條乃至第九九二條)第九九六條)又我破産法案ニ於テハ獨逸破産法ニ於ケルカ如ク破産手續開始ノ效力トシテ破産債權者ヲシテ之ヲ否認スルコトヲ得セシメタリ(破産法案第八六條以下)元來破産者ハ唯破産ノ宣告後ニ於テ破産財團ニ屬スル財産ノ管理及ヒ處分ヲ爲ス權能ヲ喪失スルニ止マルノミ故ニ破産宣告前ニ於テ破産者ノ爲シタル權利行爲ハ理論上有效ナルコト敢ノ疑ナシ然レトモ經濟上不如意ノ地位ニ在ル債務者ハ其破産宣告前ニ於テ破産財團ニ屬スル財産ニ關シ未タ管理及ヒ處分ヲ爲スノ權能ヲ喪失セサルヲ奇貨トシ斯ル權能ヲ濫用シテ破産者タル境遇ヲ免レンカ爲メニ財産ヲ濫費シ隨意ニ財産ヲ債權者ニ分配シ又ハ特別ニ或債權者ニ給付シ以テ損害分配主義ヲ實施スル破産手續ノ目的物タル破産財團ヲ散失セシメ又ハ之ニ損害ヲ被ラシムルコトハ經濟上避

クヘカラサルノ事實ニシテ又法律上不當ナル事項ナリ故ニ古來諸國ノ立法者ハ債權者ノ爲メニ債務者カ殆ト無資力ニ陷リタル後尚ホ財産ニ關シ管理及ヒ處分ヲ爲スノ權能アルヲ奇貨トシ之ヲ濫用シテ債權者ニ損害ヲ被ラシムルノ害毒ヲ防止スルノ方法ヲ工夫シタリ此方法ニ三主義アリ羅馬主義、佛蘭西主義及ヒ獨逸主義即チ是ナリ羅馬法ニ於テハ專ラ主觀的思想ニ其基礎ヲ設ケ債務者カ其破産宣告前ニ債權者ヲ詐害スルノ目的ヲ以テ爲シタル行爲中無償ニ非サルモノハ相手方カ其情ヲ知リタルトキニ限リ無償ナルモノハ相手方カ其情ヲ知ラサルトキト雖モ債權者ヲシテ之カ取消ヲ爲スコトヲ得セシメタリ而シテ這ハ彼ノ有名ナル廢罷訴權(Actio pauliana)ニシテ獨逸普通法ノ是認シタルモノナリ(羅馬主義)此ノ如ク羅馬法及ヒ獨逸普通法ニ於テハ廢罷訴權ヲ以テ債權者ノ利益ヲ保護シタルニ過キスト雖モ伊太利法及ヒ佛蘭西法ニ於テハ客觀的思想ニ基礎ヲ設ケ尚ホ有力ニ債權者ノ利益ヲ保護スルニ力メタリ即チ第十四世紀ニ於ケル伊太利諸市府ノ條例ニ於テ支拂不能ノ債務者ニ對シ破産宣告前ト雖モ其財産ニ付キ處分ヲ爲スコトヲ禁止シ且支拂不能ト爲リタル以後ニ於テ

債務者ト爲シタル取引及ヒ之ヨリ受取リタル辨濟ハ其效力ナシトシ此伊太利法律ヲ受繼シタル千六百六十七年佛國里昂府ノ條例ハ商人カ其支拂ノ停止後十日以内ニ爲シタル取引ハ之ヲ無效トシ又千六百七十三年商事勅令其他商法典中破産ニ關スル舊規定ハ皆破産ノ效力ヲ既往ニ遡及セシムルノ法則ヲ是認シタリ殊ニ後者ノ規定ハ破産者カ其支拂停止後ニ爲シタル行爲及ヒ其支拂停止前十日以内ニ爲シタル無償行爲其他法律上一定ノ行爲ヲ無效ナリト定メタリ然レトモ斯ル法則ノ適用ハ取引ノ效力ヲ不確實トシ其安全ヲ害スルヲ以テ千八百三十八年五月二十八日ノ法律ヲ以テ破産法ヲ改正シ無償行爲期限ニ至ラサル債務ノ支拂期限ニ至リタル債務ノ代物辨濟及ヒ從來負擔シタル債務ノ爲メ新ニ供スル擔保等(商法第九九〇條參照)ノ如キ法律上一定ノ行爲ノミヲ當然無效トシ其他ノ行爲ハ相手方カ支拂停止ノ事由ヲ知リタルトキニ限リ(主觀的前提要件)之ヲ無效ト爲シタリ(商法第九九一條參照)此ノ如ク客觀的思想ニ基礎ヲ設ケ債權者ヲ保護スルノ手段ハ伊太利法律ノ發見ニ係リ佛蘭西法律ニ依リ成熟シタルモノニシテ獨逸法學者ノ所謂破産的廢罷訴權(Konkurs pauliana)ナリ

(佛蘭西主義普漏西破産法(第一〇〇條)ハ其範ヲ佛蘭西法ニ採リ單ニ無效ヲ否認ニ改メ且支拂ノ停止ト破産手續開始ノ申立トヲ同等視シタルニ過キスト雖モ獨逸破産法ハ主觀的思想及ヒ客觀的思想ノ兩方面ニ基礎ヲ設ケ以テ債權者ノ利益ヲ保護スルニ力メタリ故ニ獨逸破産法ニ於テハ不法行爲ノ否認權、破産的否認權及ヒ無償行爲ノ否認權ノ三種ヲ設ケ債務者カ其破産宣告前ニ債權者ヲ詐害スル目的ヲ以テ爲シタル行爲ハ相手方カ其情ヲ知リタルトキニ限リ破産債權者ヲシテ其利益ノ爲メニ之ヲ否認スルコトヲ得セシメ(不法行爲ノ否認權)(獨逸破産法第三一條)損失分擔ノ手續ノ實施ヲ必要ト爲スニ至リタル債務者ノ財産ニ付キ利益ヲ獨占シ總テノ破産債權者ノ利益ヲ無視シタル破産宣告前ノ行爲ハ相手方カ支拂ノ停止又ハ破産手續開始ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキニ限リ破産債權者ヲシテ其利益ノ爲メニ之カ否認ヲ爲スコトヲ得セシメ(破産的否認權)(獨逸破産法第三〇條)又債務者カ其破産宣告前ニ爲シタル無償行爲ハ破産債權者ヲシテ其利益ノ爲メニ之ヲ否認スルコトヲ得セシム(無償行爲ノ否認權)(獨逸破産法第三二條)(前二者ノ否認權ハ主觀的基礎ニ又後者ハ客觀的基礎ニ依リタルモノナリ)(獨逸主義)我現行破産法ハ主トシテ佛蘭西主義ニ依リ又我破産法案ハ主トシテ獨逸主義ニ依リタルヲ以テ其規定ハ全然同シカラスト雖モ現行破産法ニ於ケル當然無效ノ行爲(商法第九九〇條)取消スコトヲ得ヘキ行爲(商法第九九一條)第九九六條)及ヒ登記ノ無效(商法第九九二條)ハ我破産法案ニ於ケル否認權即チ破産債權者カ破産宣告前ニ於ケル債務者ノ行爲ノ效力ニシテ破産財團ニ關シ損害アルモノヲ除去スル權利ト同シク破産宣告前ニ於ケル債務者ノ行爲ニ因リ散失シタル破産財團所屬ノ財産ノ復歸ヲ目的トスルモノナルヲ以テ破産債權者カ商法第九百九十條乃至第九百九十二條及ヒ第九百九十六條ニ基キ其權利ヲ行使シタルトキハ破産法案第八十六條以下ニ基キテ否認權ヲ行使シタルトキト同シク破産財團ヲ增加スルヤ洵ニ瞭然タリ否認權ニ關スル詳細ノ說明ハ破産ノ效力ニ讓ル

(C) 取戻權ノ行使　民事訴訟法ニ規定セル强制執行ニ於テ執行カ債務者ニ屬セスシテ却テ第三者ニ屬スル財産上ニ行ハルルコトアルト同シク破産的强制執行ニ於テ管財人カ破産者ニ屬セスシテ却テ第三者ニ屬スル財産ヲ破産財團

トシテ取扱フコトアリ此兩者ノ場合ニ於テハ何レモ第三者ノ財産權ノ侵害アリ蓋シ第三者ノ財産ハ故ナク之ヲ債務ノ辨濟ニ充ツルコトヲ得サレハナリ是ヲ以テ前者ノ場合ニ於テハ第三者ハ自己ニ屬スル財産ニ付キ爲シタル執行ヲ解クヘキ旨ヲ請求シ又必要ノ場合ニ於テハ異議ノ訴ヲ以テ斯ル請求ヲ主張スルコトヲ得(民事訴訟法第五四九條、第五五〇條第一號)後者ノ場合ニ於テハ第三者ハ自己ニ屬スル財産ヲ破産財團ヨリ別離スヘキ旨ヲ請求シ又必要ノ場合ニ於テハ訴ヲ以テ斯ル請求ヲ主張スルコトヲ得ヘシ後者ノ場合ニ於ケル第三者ノ請求ヲ取戻權ト謂フ(商法第一〇一五條)故ニ取戻權ノ行使ハ事實上破産財團ヲ減少スルコトノ原因ナリト謂フヘシ而シテ獨逸破産法(第四三條乃至第四六條)墺太利破産法(第二六條、第二七條)瑞西破産法(第二〇三條)佛國商法(第五七四條乃至第五七九條)白耳義商法(第五六六條乃至第五七二條)英國破産法(第四四條)等ニ於テハ取戻權ニ關シ明文ヲ設ケタリト雖モ我現行破産法ニ於テハ第千十五條ヲ以テ取戻ノ訴ニ關スル管轄裁判所ヲ規定シタルノ外何等ノ明文ナシ(舊商法第一編第九章參考)然レトモ之カ爲メニ取戻權ノ存在ヲ認メサルモノト論決スルコト勿レ蓋シ取戻權ノ存在ハ前述ノ法理ニ依リテ明白ナレハナリ我破産法案ニ於テハ取戻權ニ關スル規定ヲ設ケ以テ現行法ノ缺點ヲ補ヒタリ(破産法案第七四條乃至第七七條)左ニ取戻權ノ性質、主體、主張及ヒ消滅ヲ略述スヘシ

(a) 性質　取戻權ハ破産財團中ヨリ破産者ニ屬セサル特定ノ財産ヲ取戻スコトヲ目的トスル權利ナリ(1)取戻權ノ行ハルルニハ特定ノ財産タルコトヲ要ス故ニ取戻權ハ特定物又ハ破産財團ト混同セサル一定ノ金錢ノ一定ノ數額ヲ目的トスル財産ニ付キ行ハルルト雖モ特定物ノ一定ノ數量ヲ目的トスル財産ニ付キ行ハルルコトナシ蓋シ斯ル財産ノ取戻ハ事實上不能ナルヲ以テナリ(2)取戻權カ行ハルルニハ事實上破産者ニ屬セサル財産カ破産財團中ニ存スルコトヲ要ス斯ル事實上ノ關係存スルニ非サレハ特定ノ財産ヲ取戻スニ由ナシ而シテ破産者ニ屬セサル財産ヲ破産財團中ヨリ別離スルコトハ取戻ノ請求ヲ爲シタルノ結果ニ非スシテ破産者ニ屬スル財産ニ非サレハ破産財團ニ屬セサル法則ヨリ生スル當然ノ結果ナリ故ニ管財人ハ破産財團ヲ確定スルニ際シ破産者ニ屬セサル財産ヲ破産財團ヨリ別離スヘキ職務ヲ負フ(管財人ハ破産ニ屬スル

財産ニ非サレハ管理及ヒ處分ヲ爲ス權限ヲ有セス)管財人カ斯ル職務ニ違背シ故意又ハ過失ニテ破産財團中ヨリ別離スヘキ特定ノ財産ヲ換價シタル場合ニ於テモ破産債權者カ該價格ニ付キ滿足ヲ受クルコトヲ得サルハ唯破産債權者カ破産財團ニ付キ滿足ヲ受クルニ止マルノ法則ニ徵シ疑ナシ隨テ取戻權ハ特定ノ期間內ニ之ヲ主張セサルカ爲メニ失權スルコトナシ(3)取戻權ハ特定ノ財産カ破産者ノ財産ニ屬セサル旨ノ消極的原因ニ基ケリ故ニ特定ノ財産カ破産財團ニ屬セサルコトヲ前提トスル別除權ト其性質ヲ異ニスルモノト謂ハサルヘカラス

(b) 主體　如何ナル權利ヲ有スル者カ取戻權ヲ有スルヤノ問題ニ關シテハ我現行破産法ハ之ヲ實體法ノ規定ニ委シ明文ヲ以テ之ヲ規定セス隨テ實體法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ論定セサルヲ得ス我破産法案ニ於テハ之ニ反シテ佛獨諸國ノ法律ニ於ケルト同シク明文ヲ以テ之ヲ規定シ實體法ノ規定ニ依リテ取戻權ヲ有スル者アル旨ヲ明示シ併セテ破産法ノ規定ニ依リテ取戻權ヲ有スル旨ヲ明示シタリ(破産法案第七四條乃至第七八條(1)現行法及ヒ破産法案ノ解釋トシテハ實體法ノ規定ニ從ヒ取戻權ヲ有スルハ事實上破産財團ニ加ハリタル目的物カ破産者ニ屬セサル旨ヲ主張スルニ足ルヘキ權利ヲ有スル者ニ外ナラス故ニ物、權、ニ關シテ之ヲ言ヘハ破産財團ニ加ハリタル目的物ニ付キ占有權所有權、共有權、永小作權、地上權及ヒ地役權ヲ有スル者ハ取戻權ヲ有ス殊ニ占有者ハ占有回收ノ請求ノ爲メニ(民法第二〇〇條)、所有者ハ破産者ノ占有セル所有物ノ返還竝ニ所有權ノ侵害除去(例ヘハ破産者カ第三者ノ所有物上ニ於テ行使シタルニ止マル地役權的事實ヲ管財人カ破産財團ニ屬スル土地ノ爲メニ存スル地役權ナリトシテ取扱ヒタル場合ニ於テ成立スル侵害除去ノ如キ)ノ請求ノ爲メニ、共有者ハ共有物ノ分割前ニ於テハ目的物ノ全部ニ付キ又共有物ノ分割後ニ於テハ持分ニ就キ有スル請求權ノ爲メニ取戻權ヲ有シ又永小作權者、地上權者及ヒ地役權者ハ管財人カ斯ル權利ノ存在ヲ否認シタル場合ニ於テ之ヲ承認セシムルカ爲メニ取戻權ヲ有ス然レトモ破産財團ニ加ハリタル目的物ニ付キ質權、抵當權ヲ有スル者ハ取戻權ヲ有セス蓋シ斯ル權利ハ破産財團ニ加ハリタル目的物カ破産者ニ屬セサル旨ヲ主張スルノ原因ト爲ラサルヲ以テ別除權ノ原

因タルモ取戻權ノ原因タルヲ得ザレハナリ債權ニ關シテ之ヲ言ヘハ破產財團ニ加ハリタル目的物ニ付キ返還ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキ債權ヲ有スル者ハ取戻權ヲ有ス殊ニ賃貸人ハ賃借人ノ破產財團ニ加ハリタル賃借物、貸主ハ借主ノ破產財團ニ加ハリタル使用貸物寄託者ハ受寄者ノ破產財團ニ加ハリタル寄託物、質權設定者ハ質權者ノ破產財團ニ加ハリタル質物、委任者ハ受任者ニ交付シタル物ニシテ受任者ノ破產財團ニ加ハリタル物、委託者ハ問屋營業者ニ交付シタル物ニシテ問屋營業者ノ破產財團ニ加ハリタル物ニ付キ取戻權ヲ有シ債權ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ノ破產財團ニ加ハリタル讓受債權ニ付キ取戻權ヲ有シ(讓渡人カ債務者ニ債權ノ讓渡ヲ通知スル以前ニ於テ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權ノ讓渡ハ債務者其他ノ第三者殊ニ破產債權者ニ對抗スルコトヲ得サルヲ以テ債權ハ破產財團ニ屬ス隨テ讓受人ハ取戻權ヲ有セスト云ヘル反對說アリト雖モ讓受人ト破產者タル讓渡人トノ間ニ於テハ債權ノ讓渡ハ有效ナルヲ以テ讓渡シタル債權ハ讓渡人ノ破產財團ニ屬スト謂フコトヲ得ス)又取立委任若クハ質入ノ目的ニテ手形其他ノ指圖證券ヲ裏書シテ讓受人ニ交付シタル者ハ讓受人又ハ其後者ノ破產ニ於テ手形其他ノ指圖證券ニ付キ取戻權ヲ有ス蓋シ斯ル裏書ハ讓受人ニ手形其他ノ指圖證券ニ依レル權利ヲ移轉スルモノニ非サレハナリ然レトモ權利ノ設定又ハ移轉ヲ目的トシタル債權ヲ有スル者ハ破產債權者タルニ止マリ設定又ハ移轉ヲ爲スヘキ權利ニ付キ取戻權ヲ有スルコトナシ故ニ賣主カ破產宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ買主ハ未タ所有權ノ移轉セサル賣買ノ目的物ニ付キ取戻權ヲ有セス(交換ニ於テモ亦然リ)(買主カ賣買ノ目的物ニ付キ賣主ノ破產宣告前ニ於テ所有權ヲ取得シタルトキハ賣買ノ目的物ニ付キ取戻權ヲ有シ又賣主カ賣買ノ目的物ニ付キ買主ノ破產宣告前ニ於テ未タ所有權ヲ喪失セサルトキハ賣買ノ目的物ニ付キ取戻權ヲ有スルハ疑ヲ容レス)注文者ハ請負人カ材料ヲ供シ且仕事ニ施シタル場合殊ニ造船請負契約アリタル場合ニ於テ注文者カ仕事ノ進行ノ割合ニ應シテ報酬ヲ與ヘタル後請負人カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ仕事ノ目的物殊ニ船舶ニ付キ取戻權ヲ有セス蓋シ請負人ハ斯ル場合ニ於テハ仕事ノ完成ニ至ルマテ其目的物ノ所有者ナレハナリ消費貸借ノ貸主ハ借主ノ破產ニ於テ返還セシムヘキ同種ノ

物ニ付キ取戻權ヲ有セス蓋シ返還スヘキ物ハ不特定物ニシテ又借主ノ財產ニ屬スレハナリ取消權者民法第四二四條ハ相手方ノ破產ニ於テ取消權行使ノ結果トシテ相手方ノ返還スルニ至ルヘキ目的物ニ付キ取戻權ヲ有セス蓋シ取消權者ハ取消スヘキ行爲ノ目的物カ相手方ニ屬セサル旨ヲ主張スルモノニ非サレハナリ不當利得ニ基キテ發生シタル債權ヲ有スル者ハ不當利得者ノ破產ニ於テ其利得者ノ返還スヘキ目的物ニ付キ取戻權ヲ有セス蓋シ不當ニ利得シタルモノハ其利得者ニ屬スルヲ以テナリ(不當利得者タル破產者ノ利得行爲カ無效又ハ民法第百二十一條ニ從ヒテ無效ナリト看做サレタルトキハ債權者ハ給付ノ目的物ニ付キ取戻權ヲ有スルヤ言ヲ俟タス)又取立委任又ハ質入ノ目的ヲ以テ手形其他ノ指圖證券ヲ裏書ニテ交付シ且其目的ヲ手形其他ノ指圖證券ニ附記セサリシ讓渡人ハ讓受人又ハ其後者ノ破產ニ於テ該手形其他ノ指圖證券ニ付キ取戻權ヲ有セス蓋シ斯ル場合ニ於テハ手形其他ノ指圖證券ニ依レル權利ハ完全ニ讓受人ニ移轉シ其破產財團ニ屬スレハナリ(商法第四六三條)或學者例ヘハ獨逸ノ「ベーテルゼン」氏ハ反對說トシテ手形其他指圖證券ノ讓渡人ト讓受人トノ間ニ於ケル法律關係ヲ定ムルニハ裏書ノ原因タル行爲ヲ以テ準則トスヘキモノニ非サルトキハ讓渡人ハ讓受人ノ破產ニ於テ該證券ニ付キ取戻權ヲ有スト主張セリ參考ノ爲メニ一言ス(破產法案第七五條妻ノ特有財產ニ關シテ之ヲ言ヘハ妻ハ夫ノ財產ニ付キ破產手續カ開始セラレタルトキハ夫ノ占有ニ係ル特有財產ニ付キ取戻權ヲ有ス何トナレハ妻ノ特有財產ハ夫ノ破產財團ニ屬セサレハナリ但法律ハ法定財產制ニ於テ夫妻共謀シテ夫ノ債權ヲ害スルコトヲ豫防スル目的ヲ以テ夫婦ノ孰レニ屬スルカ分明ナラサル財產ハ夫ノ財產ト推定スルカ故ニ取戻權ヲ行使スル妻ハ其目的物カ自己ノ特有財產ナルコト即チ婚姻前ニ有スル財產ナルコト又ハ婚姻中自己ノ名ニ於テ取得シタル財產ナルコト例ヘハ第三者ノ相續遺贈等ノ如キ無償行爲又ハ自己ノ財產ヲ以テ爲シタル交換賣買等ノ如キ有償行爲ニ基キテ得タル旨ヲ立證セサルヘカラス(民法第八〇七條)獨逸破產法ニ於テハ尙ホ嚴ニ破產債權者ヲ害スルノ所爲ヲ豫防スル目的ヲ以テ妻カ婚姻繼續中ニ得タル財產ハ夫ノ財產ヲ以テ取得ス隨テ

夫ニ屬シ妻ハ唯取得ノ名義者タルニ過キスト推定シ妻カ該財產ヲ夫ノ財產ヲ以テ取得シタルモノニ非サル旨ヲ立證シタルトキニ限リ該財產ノ取得ヲ許シ以テ妻ノ立證責任ヲ加重シタリ(獨逸破產法第四五條佛國商法第五五九條)(2)破產法案ノ規定ニ依レハ第一ニ隔地取引ヲ爲シタル賣主ハ其發送シタル賣買ノ目的物カ代金ヲ支拂ハサル買主ノ破產宣告以前ニ於テ到達地ニ到達セス且破產宣告ヲ受ケタル買主又ハ其代理人ノ現實ノ占有ニ歸セサリシ場合ニ限リ該目的物ニ付キ取戻權ヲ有ス元來實體法ノ規定ニ從ヘハ賣渡シタル財產ハ代金ノ支拂ナキトキト雖モ買主ノ所有ニ歸スルヲ以テ買主カ未タ代金ヲ支拂ハサル間ニ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ賣買ノ目的物ハ破產財團ニ屬シ賣主ハ其代金ノ支拂ヲ目的トスル債權ニ付キ破產債權者トシテ其權利ヲ行ハサルヲ得サルニ至ル斯ル結果ハ隔地取引ノ安全ニ有害ナルノミナラス隔地取引上ノ賣主ニ對シ甚タ保護薄キニ失スルヲ以テ又斯ル結果ヲ除去スルカ爲メニ賣主ニ契約ノ解除權ヲ認ムルハ取引上ノ信用ニ有害ナルヲ以テ遂ニ賣主ハ其賣渡シタル目的物カ買主ノ破產宣告前ニ於テ買主又ハ其代理人ノ現實ノ占有ニ歸セサリシ場合ニ限リ該目的物ヲ中途ニテ差止メ以テ破產宣告ヲ受ケタル買主ノ占有ニ歸スルコトヲ妨クルヲ得ルノ制度ヲ生スルニ至リタリ蓋シ賣主ノ爲メニ其義務履行前ノ原狀ニ回復シ一旦占有ヲ離レタル賣買ノ目的物ニ付キ現實ノ占有ヲ得セシムルヲ以テ前示ノ如キ結果ヲ除去スルコトヲ得レハナリ而シテ此制度ハ第十七世紀以來英國ニ於テ慣習トシテ認メラレ爾後有名ナル差止權(Right of stoppage in transitu)ノ法制ト爲リ次ニ佛法ノ認ムル所ト爲リ羅馬法系及ヒ獨逸法系諸國ニ傳播シ現行獨逸破產法第四十四條ニ於テ取戻權ノ一種トシテ是認セラレ前示ノ如ク完成シタルモノニシテ破產法案第七十五條ニ於テ採用シタル所ナリ(本質及ヒ沿革)賣主カ其發送物ニ付キ有スル取戻權ノ性質ハ學者ノ爭フ所ナリ獨逸ニ於テハ第一ニ賣主ノ取戻權ヲ物權的請求權即チ所有權取戻權ナリト解シ買主カ破產宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ實體法ノ規定ニ依レハ賣渡シタル發送中ノ目的物ニ付キ所有權カ買主ニ移轉スルトキト雖モ法律上尙ホ賣主カ所有權ヲ有スルモノト看做シ(Fiction)之ニ依リテ賣主カ賣買ノ目的物ノ取戻ヲ爲スコトヲ得ルモノナリト云ヘル學說アリ然レトモ斯

ル見解ハ沿革及ヒ獨逸破產法第四十四條ニ所謂取戻ノ文意ニ反スルノミナラス取戻權ハ其權利者カ所有者タルコトヲ要件トス爲ササルヲ以テ斯ル擬制ヲ設クルノ必要ナキモノナリトノ理由ニ依リ多數ノ學者ノ反對スル所ナリ第二ニ賣主ノ取戻權ヲ債權的請求權ナリト解シ「コーレル」氏ハ其本質ヲ說明シテ代金ノ支拂ヲ目的トセス却テ所有權及ヒ占有權ノ回復(リエクスペルトラングング)ヲ目的トスル賣主ノ權利ニシテ買主ノ破產ニ於テ取戻權ノ原因ト爲ル特質ヲ有スルモノナリト曰ヒ「ベーテルゼン」「ウヰルモースキー」氏等ハ其本質ヲ說明シテ發送中ノ賣買ノ目的物ニ關シ債務履行前ノ原狀ニ回復スルコトヲ目的トスル債權(占有權ノ回復若シ所有權カ賣買ニ因リ買主ニ移轉セルトキハ其所有權ノ回復ヲ目的トスル債權)ニシテ賣主ハ之ニ依リテ買主カ破產宣告ヲ受クルノ當時債務ノ履行ヲ發送ノ時ニ遡リテ當然其效ナキモノトシ以テ發送中ノ賣買ノ目的物ニ付キ代金ノ一部分ヲ受クルコト能ハサルノ危險ヲ避クルコトヲ得ヘキモノニシテ(獨逸破產法ニ於テハ破產財團タルニ適當ナル財產存在セサルトキハ破產手續開始ノ申立ヲ却下シ之ヲ開始セス故ニ代金ノ一部分ト云フコトト知ルヘシ)又前述ノ取戻權ト異ニシテ賣買ノ目的物カ破產者タル買主ニ屬スル場合ニ於テ實用アルモノナリト曰ヒ又「イエグル」氏ハ其本質ヲ說明シテ取戻權ノ效力トシテ生スル賣買契約ノ解除ニ依リテ發生スル給付返還ノ債權的請求權ニ付キ破產法ノ認メタル特別ノ效力ニシテ直接ニ法律ニ根據シ當事者ノ現實的又ハ推定的意思ニ根據シタルモノニ非ス法律カ條理ニ基キ例外トシテ設ケタル制度ニシテ通常ノ取戻權ト其趣意ヲ異ニスルモノナリト曰ヘリ(獨逸民法第三四六條第三二七條)佛國ニ於テハ賣主ノ取戻權ヲ以テ賣買ノ目的物ニ關スル占有回復ヲ目的トスル權利ナリト說明スル學者アリタリト雖モ這ハ甚タ少數ニシテ多數ノ學者ハ何レモ賣主ノ取戻權ハ代金不支拂ニ基ク契約解除權ナリト說明シ其理由ハ賣買ノ目的物カ發送ノ途中ニ在リテ未タ買主ノ占有ニ歸セス且買主カ代金ヲ支拂ハサル場合ニ於テ破產法ノ原則ヲ適用シ賣主ニ解除權ヲ認メサルハ嚴酷ニ失スルノミナラス買主ノ債權者ハ買主ノ占有ニ歸セサリシ財產ニ付キ共同擔保視シテ信ヲ置クノ虞ナク且破產ニ陷ラントスル債務者ハ信用維持ノ手段トシテ多數ノ買取ヲ爲スヲ常トスルカ故ニ賣主ヲシテ其信用ノ犧牲ト

爲ラシムルハ正當ニ非スト云フニ在ルモノノ如シ此ノ如ク賣主ノ取戻權ノ性質ニ關シテハ學者ノ論爭アル所ナルヲ以テ我破産法案ニ於ケル賣主ノ取戻權ノ性質ニ關シテモ亦種種ノ見解アルニ至ルハ固ヨリ當然ナリ予輩ノ見解ニ依レハ賣主ノ取戻權ハ賣買ヲ解除セスシテ發送中ニ在ル賣買ノ目的物ノ取戻ヲ目的トスル債權的請求權ニシテ賣買ノ目的物ノ發送ニ因リ生シタル權利狀態ノ變更ヲ賣主ノ爲メニ發送ノ當時ニ遡リテ消滅シタルモノト看做スヘキ效力ヲ有スルモノナリト謂フヲ正當ト思フ(1)賣買ノ目的物ノ取戻權ハ單ニ賣主ニ認メタル權利ニシテ賣買ノ目的物ノ所有者トシテ賣主ニ認メタルモノニ非ス又取戻權者タルニハ其目的物ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ前提トセス故ニ賣主ノ取戻權ハ賣買ノ目的物ノ取戻ヲ目的トスル債權的請求權即チ代金支拂ヲ目的トスル權利ト同シク單純ナル賣主ノ權利ニシテ所有權ニ基ク取戻權即チ物權的請求權ニ非ス(2)取戻權ハ事實上破産財團ニ加ハリタル財産カ破産者ニ屬セサルコトヲ前提トス故ニ賣主ノ取戻權亦賣買ノ目的物カ破産者ニ屬セサルコトヲ前提トス隨テ賣主ノ取戻權ハ其效力トシテ賣買ノ目的物ニ關シ賣主ノ債務履行ノ爲メニ實體法ノ規定ニ依リテ發生シタル權利狀態ノ變更カ當然消滅シ賣主カ賣買ノ目的物ニ付キ所有權ヲ有セシトキハ其所有權ヲ又單ニ占有權ヲ有セシトキハ其占有權ヲ賣主ノ債務履行前ニ遡リテ回復スルモノ換言スレハ未タ賣買ノ履行ナキモノトスト謂ハサルヘカラス(3)賣主ノ取戻權ハ前述ノ如ク隔地ノ取引ノ安全ヲ保護シ賣買ノ目的物カ買主ノ破産宣告ノ當時發送ノ途中ニ在ル場合ニ於テ賣主ヲシテ其代金ノ支拂ノ完濟ヲ受クルコト能ハサルニ至ルヘキ損害ニシテ條理上其宜キヲ得サルモノヲ避クルコトヲ得セシムルカ爲メニ設ケラレタル權利ナルヲ以テ其行使ノ效力ハ前述ノ如ク賣買ノ目的物ノ所有權又ハ占有權ノ回復ヲ以テ足レリトシ賣買ヲ解除スルノ必要ナシ故ニ賣買ハ其成立當時ノ狀態ニ於テ依然存續スルモノト謂ハサルヘカラス隨テ管財人ハ破産財團ノ爲メニ代金ヲ支拂ヒテ賣買ノ履行ヲ賣主ニ對シテ請求スルコトヲ得ヘシ(破産法案第五九條)(性質)賣主カ其發送中ニ在ル賣買ノ目的物殊ニ商品及ヒ有價證券ニ付キ取戻權ヲ有スルニハ三箇ノ要件ヲ具備セサルヘカラス其第一ハ賣買カ隔地取引(Distanzgeschäft)ナルコトヲ要シ隔地取引トハ一

定ノ動産ヲ或發送地ヨリ或到達地ニ達セシムルカ爲メニ送付スルコトヲ要スル取引ニシテ民事取引タルト商事取引タルト又契約者カ商人タルト否トヲ問ハサルナリ故ニ賣買ノ目的カ契約成立ノ當時ニ若シ結約後製造スヘキ場合ニ於テハ其製造完成ノ當時ニ存スル場所ト買主カ該目的物ヲ受取ルヘキ場所ト異ナルトキハ隔地取引ナリト謂フコトヲ得ヘシ買主カ運送費及ヒ運送危險ヲ負擔シタルト、到達地カ義務履行地ナルト、賣主カ自己固有ノ義務トシテ又ハ買主ノ委託ニ因リテ發送ノ爲メニ目的物ヲ運送人ニ、或ハ運送取扱人ニ交付シタルト、賣主自身カ目的物ヲ發送シタルト、買主ノ負擔ニ歸シタル義務ノ履行地カ賣主ノ住所ナルト、營業所ナルト、目的物ノ發送地ナルト目的物ノ到達地ナルト否トヲ問ハサルナリ同地取引(Platzgeschäft)即チ結約ノ當時若クハ製造完成ノ當時ニ於テ賣買ノ目的物ノ存在スル場所ト買主カ該目的物ヲ受取ルヘキ場所ト異ナルトキハ買主又ハ其代理人カ結約後直チニ賣買ノ目的物ヲ他所ニ運搬スヘキ意思ヲ表示シタル場合ナルト、買主ト第三者(買主ノ買主)トノ約旨ニ基キ目的物ヲ他所ニ運搬スル場合ナルト否トヲ問ハス賣主ハ該目的ニ付キ取戻權ヲ

雜報

○管財人カ破産者ノ意見ヲ聽カスシテ起シタル訴ノ效力　管財人カ破産財團ニ關シテ訴訟ヲ爲スニハ破産者ノ意見ヲ聽クヘキコトハ二十三年商法第千十九條第二項ニ規定セル所ナリ今管財人カ此規定ニ反シテ訴ヲ提起シタリトセハ裁判所ハ訴訟ノ要件ヲ缺クモノトシテ却下スヘキカ如何大審院ハ曰ク「破産管財人カ訴訟行爲ヲ爲スニ付テハ破産者ノ意見ヲ聽クヘキモノナルコトハ商法第千十九條第二項ノ規定スル所ナリト雖モ管財人ハ其意見ニ毫モ拘束セラルルコトナク自己ノ自由意思ヲ以テ訴訟ヲ爲スヘキヤ否ヲ決シ得ルモノナレハ破産者ノ意見ハ訴訟ノ提起ヲ左右スルノ效力ヲ有スヘキモノニアラス從テ其意見ヲ聽クコトハ管財人カ訴訟ヲ提起スルニ付テノ要件ナリト云フヘカラス既ニ其要件タラサル以上ハ破産者ノ意見ヲ聽カスシテ管財人カ提起シタル本訴ノ不適法ナラサルヤ勿論ナリトス」ト(大審院明治三十六年(オ)第三百六十號株金拂込請求事件明治三十六年十二月二十二日第一民事部判決)

○日韓協約　去月二十三日我駐韓全權公使林權助氏ト韓國外部大臣臨時署理陸軍參將李址鎔トノ間ニ調印セル議定書左ノ如シ

議定書

大日本帝國皇帝陛下ノ特命全權公使林權助及大韓帝國皇帝陛下ノ外部大臣臨時署理陸軍參將李址鎔ハ各相當ノ委任ヲ受ケ左ノ條款ヲ協定ス

第一條　日韓兩帝國間ニ恒久不易ノ親交ヲ保持シ東洋ノ平和ヲ確立スル爲メ大韓帝國政府ハ大日本帝國政府ヲ確信シ施政ノ改善ニ關シ其忠告ヲ容ルルコト

第二條　大日本帝國政府ハ大韓帝國ノ皇室ヲ確實ナル親誼ヲ以テ安全康寧ナラシムルコト

第三條　大日本帝國政府ハ大韓帝國ノ獨立及領土保全ヲ確實ニ保障スルコト

第四條　第三國ノ侵害ニヨリ若ハ內亂ノ爲メ大韓帝國ノ皇室ノ安寧或ハ領土ノ保全ニ危險アル場合ハ大日本帝國政府ハ速ニ臨機必要ノ措置ヲ取ル可シ而シテ大韓帝國政府ハ右大日本帝國政府ノ行動ヲ容易ナラシムルタメ十分便宜ヲ與フルコト

大日本帝國政府ハ前項ノ目的ヲ達スルタメ軍略上必要ノ地點ヲ臨機收用スルコトヲ得ルコト

第五條　兩國政府ハ相互ノ承認ヲ經スシテ後來本協約ノ主意ニ違反スヘキ協約ヲ第三國トノ間ニ訂立スルコトヲ得サルコト

第六條　本協約ニ關聯スル未悉ノ細條ハ大日本帝國代表者ト大韓帝國外部大臣トノ間ニ臨機協定スルコト

○最近百年間ニ於ケル大海戰統計　最近百年間ニ於ケル著名ナル戰海ノ概說ヲ示セハ實ニ左ノ如シト云フ

役名	年月	交戰艦數	戰鬪時間
「アブキル」	千七百九十八年八月一二日	英一六隻　佛一七隻	自午後六時至翌午前十一時
「ドラファルガル」	千八百五年十月二十一日	英二七隻　佛西連合三三隻	自正午至四時

此役英軍死傷九百人ニシテ佛艦九隻ヲ捕獲シ四隻ヲ擊沈シ其死傷乘組員ノ半數ニ達セリ

此役英軍死傷二千五百人、司令長官ネルソン戰死ス佛國損害十九隻逃走中

四隻ハ捕獲セラレ死傷七千人ニ及ヒ司令長官「ヴヰレニユーブ」之ニ死ス

「ナパリノ」　千八百二十七年十月二十日　英佛露連合二六隻　土埃連合八二隻

此役土軍五十五隻ヲ失ヒ死者六千人ニ及ヒタリ

「リッサ」　千八百六十六年七月二十日　墺二七隻　伊三四隻　自午前十時四十五分至正午

此役墺軍死傷百七十六人ニシテ伊艦二隻ヲ擊沈シ一隻ヲシテ戰鬪力ヲ失ハシメ伊軍ノ死傷及ヒ俘虜ト爲リタル者八百六十人

黃海　明治二十七年九月十七日　日清一一〇隻　自午後〇時五十分至同五時三十分

此役我軍死傷二百八十一人ニシテ清艦五隻ヲ擊沈シ清軍死傷二千人ニ及ヒタル一大激戰タリシハ諸君ノ記憶ニ新ナル所ナルカ堅壘ノ下ニ蟄居シテ自滅ヲ計ル露艦ニ比スレハ清艦モ亦健氣ナリシヲ見ルヘシ

法政大學編輯局　野澤潤之助著

新案　商法研究錄　會社編　發行所

●東京日日新聞評　著者ハ法政大學編輯局員ニシテ夙ニ會社法ノ研究ニ專ラニ從事シ最モ其ノ長ヲ發揮シ同學ノ士ニ頒ツ其ノ上卷ハ總則會社商行爲ノ三編ヨリ成リ卷末ニ附スル會社登記書式ヲ以テ最モ適當ナリトス

●日本新聞評　本書ハ法學士ノ著作ニ係リ會社法ノ要旨ヲ簡明ニ解釋シ且ツ會社ノ設立ニ關スル書式ヲ掲ケタルモノニシテ（以下略）

●東京法律新聞評　本書ハ法學士ノ著作ニ係リ會社法ノ要旨ヲ簡明ニ解釋シ且ツ會社ノ設立ニ關スル書式ヲ掲ケタルモノニシテ（以下略）

●東京日日新聞評　本書ハ法學士ノ著作ニ係リ會社法ノ要旨ヲ簡明ニ解釋シ且ツ會社ノ設立ニ關スル書式ヲ掲ケタルモノニシテ（以下略）

●東京六新聞評　本書ハ法學士ノ著作ニ係リ會社法ノ要旨ヲ簡明ニ解釋シ且ツ會社ノ設立ニ關スル書式ヲ掲ケタルモノニシテ（以下略）

●法學新報　本書ハ法學士ノ著作ニ係リ會社法ノ要旨ヲ簡明ニ解釋シ且ツ會社ノ設立ニ關スル書式ヲ掲ケタルモノニシテ（以下略）

●會社編　發行所　東京日日新聞評　本書ハ法學士ノ著作ニ係リ會社法ノ要旨ヲ簡明ニ解釋シ且ツ會社ノ設立ニ關スル書式ヲ掲ケタルモノニシテ（以下略）

●總則會社商行爲　東京日日新聞評　本書ハ法學士ノ著作ニ係リ會社法ノ要旨ヲ簡明ニ解釋シ且ツ會社ノ設立ニ關スル書式ヲ掲ケタルモノニシテ（以下略）

●會社編　發行所　東京日日新聞評　本書ハ法學士ノ著作ニ係リ會社法ノ要旨ヲ簡明ニ解釋シ且ツ會社ノ設立ニ關スル書式ヲ掲ケタルモノニシテ（以下略）

四後ハ埔鹽セラレ死傷七千八二及ビ司令長官ノガレニエーブ之ニ死ス

「ナ　ン　ク」　千八百二十七年十月二十日　支那總督ハ二八〇〇人ノ人ヲ以テ攻撃ス

此役ニ敵ノ死傷ハ六千一二及ヒタリ

「リ　ス　ト」　千八百八十五年七月二十日　伊三四人　自千百十四年四十五分　至千百十四年四十五分

此役ニ敵ハ二千六百人ニ達シ我ハ二隻ノ艦沈シ一隻ヲシテ戰鬪力ヲ失シシノ他ハ大損傷ヲ蒙リタリ　者八百六十人

黃海　明治二十七年九月十七日　清艦一〇〇隻　自午後〇時五十分至同午後三時三十分

此役ニ我ハ二百一十一人ニシテ清艦五隻ノ撃沈シ清軍死傷二千人ニ及ヒ

ヒ　ノ　大　沈　ヲ　シ　ハ　諸　説　ノ　記　載　ニ　依　テ　ハ　ル　ヲ　略　量　ノ　下　ニ　施　居　シ

ニ　自　ハ　計　ル　ベ　ク　ア　ラ　ズ　ト　雖　モ　其　ノ　損　傷　ヲ　次　ノ　如　ク　ナ　ル　シ　ノ　見　ル　ヘ　シ

法政大學編輯局員　守谷富之助著

新案　商法研究錄　總則編　會社編　證券編

●菊判百六十四頁●附錄十二頁
●特價金三十五錢（郵稅不要）
●郵券代用ハ切錄切手十枚

●東京日日新聞評　著者ハ法政大學編輯局員ニシテ多年自家研究ノ爲メニ拔萃シ置キタルモノヲ蒐メテ此書ヲ發行シ同學ノ士ニ頒ツ其ノ上卷ハ總則會社商行爲ノ三編ヨリ成リ卷尾ニ附スルニ諸證券而等ヲ以テス商法家ノ一顧スヘキ新刊書ナリ（二月一日）

●日本新聞評　覺エニクキ商法ヲ覺エ易カラシメン爲メノ書（二月二日）

●通俗法律新聞評　著者カ新案ナリト云フ如ク考案カ至極實用ニ適シテ居ル從來世ニ行ハレテ居ル圖解講義又ハ條文分析ノ幽解トモ少シ異トナリテ居ル故ニ商法ノ智識ヲ有ツテ此書ヲ讀メハ法理ト條文トノ關係カ一見シテ明瞭ナル又商法研究ノ初步若シクハ地方ニ在テ獨學シテ居ル人カ自問自答ノ資料トスルニモ適當ナル…（二月十一日）

●萬朝報評　本書ハ自家研究ノ爲メ拔萃シタル備忘錄樣ノモノニテ欄外ニ書入ヲ爲シ置クヤウ出來タリ…（二月十三日）

●二六新報評　商法ハ民法ヲ一應心得タルモノニアラスハ學ノ能ハス今此ノ書ハ新案ニシテ簡便ナルモノナリ（二月十四日）

●法律新聞評　……由來私立法學校出身者ノ著ス所ノ書多クハ射利ノ目的ノ下ニ發行セラ

レタル何等世間ニ價値ナキ不生產的著書ニシテ吾人ハ常ニ斯ノ如キ慨歎セラルルヲ慨セリ本書ハ全ク此ノ目的ノ著書ト其ノ撰ノ異ナルハ其ノ目的ニ於テモ然リ……（二月二十日）

●經濟新報評 著者ハ法政大學編輯員ニシテ殊ニ商法ニ精通スト稱セラル此書ハ著者カ多年研究シ蘊蓄セル各國ノ法理ト我商法トヲ項目的ニ區分シ一見直ニ其疑惑ヲ解シ得ル便宜ノ一書ニシテ多忙ナル實業家ニアリテハ必ラス座右ノ侶タルヘシ……（二月二十五日）

●明治法學評 本書ハ名ノ如ク商法研究上ノ便益ニ資スルモノニシテ方式ハ從來未タ見サル所ニ係リ新案ノ稱ニ負カス上卷トシテ商法第一編乃至第三編ニ付キ諸種ノ事項ニ付テ意義、性質、效力、制限、手續、其他例ヘハ登記事項、解散事由等ヲ極メテ簡潔ニ摘錄シ各々其條項ヲ註記シアリ末ニ附錄トシテ必要ノ法令及ヒ預證券、質入證券、貨物引換證、各種保險證券ノ形式ニ關スル實例ヲ附セルハ好適ノ用意タリ斯法研究者殊ニ應試者ノ便益ヲ爲ス亦鮮小ナラサルヘシ（三月八日）

發行所 東京市麹町區麹町二丁目十番地 晩馨書院

發賣所 東京市神田區表神保町四番地 日本經濟社

○校外生募集廣告

本大學三十七年度講義錄ハ之ヲ三學年ニ分チ各學年共昨年十月ヨリ毎月三回發行滿一箇年ヲ以テ必ス完結セシム○月謝金ハ各學年共金五十錢但官公衙在職者（證明書ヲ要ス）及ヒ本大學校友ノ紹介アル者ハ金四十五錢トス、總テ入學金ヲ要セス、志望者ハ至急申込ムヘシ（一月分ヨリ各學年金四十錢校友ノ紹介ニ依ル者ハ金三十五錢全學年金一圓トス）

各學年講義錄掲載科目及ヒ擔任講師

第一學年

- 法學通論　中村博士、憲法　清水學士、民法總則第三章マテ　梅博士、同第四章以下　鈴木學士、
- 物權第六章マテ　肇田學士、債權第一章第三節マテ　梅博士、同第一章第四、五節　横田學士、刑法總論　谷野學士、國際公法平時　中村博士、同戰時　秋山學士、經濟學　山崎學士

第二學年

- 債權第二章　梅博士、同第三章以下　田代學士、刑法各論　古賀學士、商法總則、會社　松本學士
- 商行爲第九章マテ　田坂學士、同第十章　村上學士、民事訴訟法第一編　仁井田博士、同第二編　岩田學士、刑事訴訟法　豐島學士、財政學　岡學士

第三學年

- 物權第七章以下　宮井博士、親族　掛下學士、相續　若槻學士、手形　矢部學士、海商　加藤學士
- 行政法總論　美濃部博士、同各論　上杉學士、國際私法　山田博士、民事訴訟法第三編以下第五編マテ　遠藤學士、同第六編以下、破產法　松岡學士

三月

司法省指定
文部省認定
私立 法政大學

法政大學講義錄　三十七年度　第三學年　第十六號

法學志林

一部定價金十二錢郵稅一錢
十部前金郵稅共一圓二十錢
校友、生徒、校外生ハ一部持價郵稅共十一錢十部前金郵稅共一圓

第五十四號目次（三月十五日發行）

○國家ノ觀念ニ關スル學問上ノ抵觸　法學士　岡實

志林
- ○先取特權ニ準用スヘキ抵當權ノ規定　法學士　板倉松太郎
- ○最近判例批評（其十八）　法學博士　梅謙次郎
- ○萬國的商法（完）　法學博士　松波仁一郎

纂論
- ○當國新手形法（四）　法科大學生　佐竹三吾

解疑
- ○承繼人ノ意義及債務者ニ對スル保證人ノ地位　法學士　横田秀雄
- ○取締役ノ辭任ト株主總會　法學士　松本烝治
- ○實家ニ父母ナキ十五年未滿ノ娶子カ離緣ヲ爲サトンスルトキノ手續　法律學士　掛下重次郎
- ○手形ノ保證ト連帶　法學博士　富谷鉞太郎

寄書
- ○代理商ノ性質ヲ論ス　校友　増田晴彦

判例
- ○大審院新判決例五十二件

其他雜報、記事等

發行所　司法省指定　文部省認定　私立　法政大學

（明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可　毎月十四日一日三日五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行）

明治三十七年三月十五日印刷
明治三十七年三月十八日發行
（定價金貳拾錢）

編輯兼發行者　東京市牛込區牛込北町十番地　萩原敬之

印刷者　東京市牛込區矢來町三番地　小宮山信好

印刷所　東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地　金子活版所

發行所　東京市麴町區富士見町六丁目十六番地　司法省指定　法政大學

（電話番町百七十四番）